2　事業の概要

Ⅰ　学園全体

1. 新型コロナウイルス感染症予防対策について

前年度に引き続き、学園全体で「感染しない・させない、安心・安全な教育活動の推進」を基本とし、新型コロナウイルス感染の拡大防止に取り組んだ。
4 月 25 日に東京・大阪・京都・兵庫に発出された第 3 次緊急事態宣言に対する本学各部門の対応は以下の通り。

A.　授業等

①　大学
4 月 26 日から 29 日までハイフレックス型授業とした。
30 日からは前年度後期に引き続き原則ハイフレックス型授業とし、必要性の高いものは対面で実施した。

②　附属中学高等学校
授業は原則対面で実施し、都内感染者数 2,000 名を目安にハイフレックス型授業に切り替えた。欠席者や在宅希望者にはオンラインで配信した。
昼食は黙食を徹底し、それ以外の摂食は禁止した。
クラブ活動は感染対策を徹底し、人数・日程などを制限した。休日の練習・試合を中止し、公式戦には保護者の許可を得て参加させた。
学校行事や朋友班活動は中止した。

③　附属小学校
通常通り授業を実施し、希望者にはオンラインで配信した。中学高等学校と同様に都内感染者数によりオンライン授業に切り替えた。
給食やブレイクタイムは実施したが、密となる行事や放課後活動は中止した。

④　こども園
世田谷区保育部からの「緊急事態宣言を受けた保育施設の運営に対する通知」に沿って保育を実施した。家庭で保育可能な園児には登園自粛への協力を要請。世田谷区の目安である登園率 60%を目安とした。
緊急事態宣言中の特別教育および行事は延期とした。

⑤　ブリティッシュ・スクール・イン・トウキョウ昭和
感染状況により、一部クラスはオンライン授業に切り替えた。
4 月 29 日からは中高等部がハイフレックス型授業に変更した。

B.　新型コロナワクチンの職域接種

学園を会場に 7 月 10 日からの土日にコロナウイルスワクチンの職域接種を実施した。
9 月 12 日からは追加接種、附属中高部生徒や近隣の学校にも声をかけている。
3 月 5 日からは 3 回目のブースター接種を行い、総接種回数は 15,002 回を数えた。

C.　夏季休暇後の対応

9 月 30 日でに全都道府県で緊急事態宣言およびまん延防止重点措置が解除された。学園の対応は以下の通り。

①　大学
10 月 14 日まではハイフレックス型授業を行い、15 日以降は感染防止対策を徹底して原則対面授業とした。
国外在住者、健康上の理由等により授業に参加できない学生にはオンラインで配信した。

②　附属中学高等学校
10 月 4 日から通常登校・対面授業を開始したが、ブレイクタイムや朋友班活動は延期とした。
週 4 日までのクラブ活動を許可し、休日練習や試合は再開を見送った。

③　附属小学校
10 月 4 日から登校・対面授業を開始した。コース別体育や特別クラブ活動、朝のマラソンも再開した。

④　こども園
世田谷区の方針に従い通常通りに保育・教育を行った。

⑤　ブリティッシュ・スクール・イン・トウキョウ昭和
通常通り授業を開始した。

D.　昭和ボストン
米国疾病予防管理センター(CDC)のガイドラインに沿って予防と検査を実施した。
大学の海外留学用危機管理マニュアルに従い対策本部を設置。昭和ボストンとオンラインミーティングを実施した。

2. 組織

A. 新型コロナウイルス感染症予防対策を担当する危機対策本部の運営を継続した。また、時差勤務・在宅勤務・時短開室勤務などを併用しつつ、職域接種を３回実施して感染防止と業務遂行の両立を図った。

B. 以下の組織変更を行った。
① 国際連携本部を廃止し、担当業務を次の部署に移管した。
1. 経営管理＝学園本部、2. 学務＝グローバル推進委員会
② 学園本部に本部長を新たに配置して学園本部機能の向上を図った。
③ 大学部門の生活科学部が食健康科学部に改組・改称するのに伴い、生活科学部３学科の教授室を廃止して新たに学部事務室を設置し、業務の効率化を図った。
④ 附属小学校では役職者の担当職務を再編し、以下の３職務を変更した。
教頭２名体制を改めて１名体制とした。
入試・企画部長が担当した企画業務を教務部長へ移管した。
入試・企画部長は入試部長に名称を変更した。
⑤ こども園の組織再編に伴い、園長補佐を廃止した。

C. 下記のワーキンググループを有志職員で構成・設置して懸案課題の早期解決に取り組んだ。
① 「中期方針策定ワーキンググループ」を新たに設置し、幅広い意見聴取と取りまとめを図り、2022 年度以降の中期方針を策定した。
② 「人事戦略に関する提言を行う会」ワーキンググループを新設し、協議結果を理事会に提言した。

D. 附属中学高等学校の校長が附属小学校の校長を兼任し、小中高一貫教育の推進を図った。また、附属小学校では新たに校長補佐を２名配置して運営体制を強化した。

3. 人事

A. SD 活動の主な取り組みは以下の通り。
① コロナ禍においても、職員が日本能率協会（延べ 16 名）、早稲田アカデミックソリューション（延べ 16 名）の外部研修を受講した。
② 大学部門、法人部門の内部研修会として、所属別に全常勤職員参加型の勉強会を実施した。

B. 管理職の高齢化および中堅職員の早期抜擢を図るため、大学部門では職員を対象に次年度学生支援課長を公募して任命した。

C. 円滑な組織体制の整備と管理職の高齢化に対応するため、管理職への早期登用を行った。

D. 人件費比率は学園の中期方針の上限 55.0%に対して 49.3%の実績となった。

4. キャンパスの整備・改修工事

2021 年度に実施した主な改修工事等は以下の通り。（主要 14 件）

内　　容	金　　額
人見記念講堂改修	1,646,398,000 円
西門～こども広場・本部館～3 号館　環境整備工事	135,247,000 円
普通教室アクティブラーニング対応　机・椅子更新	72,589,000 円
中高 2 号館エントランス改修（第 3 期）	69,423,000 円
オンライン・ＢＹＯＤ向けの学内ネットワーク増強	68,360,000 円
8 号館空調機更新（5 階・6 階）	51,029000 円
グリーンホール改修	48,190,000 円
1 号館地下調理実習室改修	43,637,000 円
中高 1 号館特別教室空調機更新（第 2 期）	23,859,000 円
視聴覚施設更新（プロジェクター他）	18,553,000 円
学園本部館エレベーター改修	16,069,000 円
国際学部事務室に伴う改修工事	15,620,000 円
1 号館消火ポンプ更新	14,850,000 円
中高 1 号館普通教室照明更新（第 1 期）	13,200,000 円

A.　キャンパス内の ICT 環境整備

①　大学部門
　無線 LAN 入れ替え（文科省 ICT 活用推進事業補助：補助対象 事業経費 29,271,000 円）

②　学生ポータルサイト UP SHOWA のバージョンアップおよび学修ポートフォリオ機能の追加

③　Microsoft 365 サービスの導入（学生向け無償版マイクロソフト office）

④　ZOOM 契約を更新（文科省遠隔授業活用推進事業補助：補助対象 事業経費 9,375,000 円）

⑤　学内ファイル管理サーバを入れ替え

B.　その他の主な取り組み

①　物品発注集中化による各部署業務負担を軽減した。

②　郵便料金計器を導入して事務作業を効率化した。

5. 中期的な計画および事業計画の進捗

部門等		内容	2020年度実績	2021年度実績
大学院・大学	人事	大学常勤教員数	210	215
		大学非常勤教員数	509	472
		常勤教員割合	29.2%	31.3%
		附属校常勤教員数	155	153
		常勤職員数	201	197
	研究	研究論文発表数	220	193
		外部研究資金獲得件数(科研費関係)	35	50
		外部研究資金獲得件数(その他委託研究等)	8	14
		外部研究資金総額(円)	31,150,000	40,214,362
	教育	常勤教員開設講座数前期(大学院・大学)	1,320	1,234
		常勤教員開設講座数後期(大学院・大学)	1,232	1,196
		常勤教員担当講座数(平均)	6.1	6
		常勤教員あたり学生数(大学)	29.0	29
		81人以上過大クラス数(大学合計3,458講座)	293	239
		81人以上過大クラス割合(大学合計3,458講座)	8.2%	6.7%
		10人未満過小クラス数(大学合計3,458講座)	488	447
		10人未満過小クラス割合(大学合計3,458講座)	13.7%	12.6%
		公開授業数・割合	-	-
		PBL・対話型授業数・割合	-	-
		外部協働プロジェクト活動の件数	不明	103
		学科別目標資格等試験合格率	-	-
	国際	海外大学への派遣学生数・割合	66	132
		昭和ボストンへの留学者数(1学期以上)	206	425
		昭和ボストンへの留学者数(1学期未満)	29	52
		テンプル大学日本校派遣学生数	34	50
		海外短期研修参加者数(昭和ボストンを除く)	149	87
		外国人留学生数	106	116
	キャリア	インターンシップ受入企業数	111	124
		インターンシップ参加学生数	334	316
		大学卒業者の実就職率	92.0%	92.6%
高等学校	キャリア	卒業者数	196	189
		他大進学者数	107(54.6%)	115(60.8%)
		国公立大合格件数	2(2.0%)	3(15.0%)
		医薬保健看護系進学者数	26(13.3%)	24(12.7%)
		理系学部進学者数	24(12.2%)	28(14.8%)
アドミッション	大学部門	一般入試	10,036	9,615
		推薦その他	1,311	1,357
		志願者総数	11,347	10,972
		入学者数	1,522	1,682
	中学校	志願者数	1,435	1,302
		入学者数	195	226
	小学校	志願者数	307	406
		入学者数	119	102
学園規模	在籍者数	大学院・大学	6,172	6,307
		中学高等学校	1,219	1,198
		小学校	651	655
		こども園	222	223
		ブリティッシュスクール	765	751
		在籍者総数	9,029	9,134
財務	事業活動収支差額比率 (基本金組入前当年度収支差額／事業活動収入)		16.5%	12.8%
	人件費比率 (人件費／経常収入)		49.1%	49.3%
	学生生徒等納付金比率 (学生生徒等納付金／経常収入)		76.1%	74.4%

6. 優秀者表彰と奨学金贈呈

① 人見記念奨学生（大学院・大学・高等学校）：人物および成績が著しく優秀な者、模範となる実績を残した者
② 成績優秀奨学生（大学院・大学・高等学校）：人物および成績が著しく優秀な者
③ 稲穂奨励基金奨学生（大学）：芸術、スポーツなどにおいて優れた業績をあげた者または団体
④ 水上奨励基金奨学生（日本語日本文学科）：日本語・日本文学・書道など、日本文化と関わりのある領域で業績をあげた学生または団体
⑤ 熊澤育英基金奨学生（初等教育学科･健康デザイン学科･管理栄養学科）：本学大学院への進学を目指している者

創立記念式典で次の奨学生を表彰し、奨学金を贈呈した。2021 年度の奨学生数は以下の通り。（合計 236 名）

種別	部門	人数
人見記念奨学生	大学院	2 名
	大学	42 名
	高等学校	6 名
	合計	50 名
成績優秀奨学生	大学院	3 名
	大学	133 名
	高等学校	45 名
	合計	181 名
稲穂奨励基金奨学生	大学	4 名、1 団体
水上奨励基金奨学生	大学	1 名
熊澤育英基金奨学生	大学	3 名

7. 各種媒体による紹介

学園関係者が紹介された主なメディア数は以下の通り。

氏名	媒体
坂東眞理子 理事長・総長	テレビ 2・ラジオ 8・WEB43・新聞 30・雑誌 52 イベント 7・書籍 2
小原奈津子 学長	WEB2・雑誌 2
川平朝清 名誉理事	表彰 1・ラジオ 1・WEB23・新聞 23・雑誌 1
天野寛子 名誉教授	WEB1
月田みづえ 名誉教授	WEB1・新聞 1
槍田良枝 名誉教授	WEB1・書籍 1
山本暉久 名誉教授	テレビ 1
八代尚宏 副学長	WEB30・新聞 11
志摩園子 副学長	イベント 1
英語コミュニケーション学科 杉田敏 客員教授	WEB5・書籍 1
英語コミュニケーション学科 中野香織 客員教授	WEB2・雑誌 1
英語コミュニケーション学科 小西卓三 准教授	WEB1
英語コミュニケーション学科 大塲貴志 専任講師	WEB1・雑誌 1
国際学科 柏木厚子 教授	WEB3・新聞 1・雑誌 2
国際学科 ボルジギン 呼斯勒 教授	イベント 1
ビジネスデザイン学科 今井章子 教授	WEB2・雑誌 1・イベント 2
ビジネスデザイン学科 湯川抗 教授	ラジオ 4・新聞 1
ビジネスデザイン学科 小西雅子 特命教授	テレビ 1・WEB13・新聞 4・雑誌 2・イベント 1
ビジネスデザイン学科 浅田裕子 准教授	WEB1
ビジネスデザイン学科 本合暁詩 教授	書籍 1
ビジネスデザイン学科 長屋真季子 専任講師	WEB1・ラジオ 1
ビジネスデザイン学科 前田純弘 非常勤講師、学生	WEB1
会計ファイナンス学科 山田隆 教授	WEB1
会計ファイナンス学科 加納輝尚 准教授	WEB1・雑誌 2
会計ファイナンス学科 髙木俊雄 准教授	WEB1
日本語日本文学科 黛まどか 客員教授	テレビ 1・WEB1
日本語日本文学科 近藤彩 教授	テレビ 11・WEB7・新聞 1・雑誌 3・イベント 2
日本語日本文学科 山田夏樹 専任講師	WEB1
歴史文化学科 木下亮 教授	WEB1・イベント 1
心理学科 池上真平 専任講師	テレビ 1
心理学科 渡邊寛 助教	WEB1
福祉社会学科 北本佳子 教授	WEB1
現代教養学科 シム チュン・キャット 准教授	WEB1

氏名	媒体
現代教養学科 福田淳子 准教授	雑誌 1
現代教養学科 天笠邦一 准教授	WEB1
現代教養学科 ケイン樹里安 特命講師	WEB2・新聞 4
現代教養学科 八木良広 助教	WEB 4 ・新聞 4
初等教育学科 石井正子 教授	WEB2・新聞 1
初等教育学科 白數哲久 准教授	テレビ 1
健康デザイン学科 海原純子特命教授	WEB3
健康デザイン学科 山中健太郎 教授、関口浩文 非常勤講師	新聞 1
食安全マネジメント学科 梅垣敬三 教授	WEB1・イベント 1
食安全マネジメント学科 末川 久幸 客員教授	WEB1、イベント 1
環境デザイン学科 田村圭介 教授	テレビ 1・ラジオ 2・WEB13・新聞 1
環境デザイン学科 橋本夕紀夫 非常勤講師	WEB1
総合教育センター 友野清文 教授	WEB2・新聞 2
総合教育センター 稲澤裕子 特命教授	WEB3・新聞 1・雑誌 1
総合教育センター 白河桃子 客員教授	WEB14・イベント 1
総合教育センター 川崎昌平 非常勤講師	雑誌 1
総合教育センター 中村圭志 非常勤講師	雑誌 1
大学について	WEB19・新聞 7
生活機構研究科 福祉社会研究専攻 高橋学 教授	WEB1
生活機構研究科 福祉社会研究専攻 粕谷美砂子 教授	雑誌 1
大学院について	WEB2・新聞・雑誌 1・表彰 1
キャリア支援 磯野彰彦 センター長	WEB1・雑誌 3
キャリア支援 徳田桃理 書記	WEB1・新聞 1
学生相談室	WEB1
情報メディア課 下村良幸 主任	ラジオ 1・WEB1・イベント 1
広報部 梅沢美紀 課長	WEB1
学生（プロジェクト以外）	テレビ 3・WEB6・新聞 3・雑誌・イベント 1
学生プロジェクト（ゼミプロジェクト含む）	テレビ 1・ラジオ 1・WEB4・新聞 2・雑誌 2
秋桜祭実行委員会	テレビ 1
学生ボランティアコーディネーターENVO	WEB1
国際交流グループ CHAWA	ラジオ 1
100 周年事業プロジェクト	テレビ 3・WEB3・新聞 1
現代ビジネス研究所 プロジェクト	テレビ 4・WEB14・新聞 20・雑誌 2・書籍 1
熊平美香 キャリアカレッジ学院長	WEB5・新聞 4・雑誌 2
光葉博物館	WEB2
近代文化研究所 堀内正昭 客員研究員	テレビ 1・WEB4・新聞 2・雑誌 1
近代文化研究所 佐藤美恵子 主任	雑誌 7

氏名	媒体
国際文化研究所 友田博通 所長	WEB1
国際文化研究所 山岸良二 客員研究員	テレビ 1
女性文化研究所 遠藤由紀子 研究員	WEB1・イベント 1
現代ビジネス研究所小島慶子特別研究員	WEB6
現代ビジネス研究所 治部れんげ 研究員	WEB2
現代ビジネス研究所 橋本之克 研究員	WEB7・書籍 1
現代ビジネス研究所 美浦幸子 研究員	WEB3・新聞 2・雑誌 2
附属昭和小学校 大熊太郎 教諭	WEB2
附属昭和中学校・高等学校 真下峯子 校長	WEB7・新聞 5・雑誌 1・イベント 1
附属昭和中学校・高等学校 粕谷直彦 教頭	WEB1
附属昭和中学校・高等学校 小松遼 教諭	WEB1
附属昭和中学校・高等学校 小松遼 教諭・山口香里 教諭	WEB1
附属昭和中学校・高等学校 生徒	WEB1
附属昭和中学校・高等学校	WEB5・雑誌 1

II　大学院・大学

教育目標

建学の精神や理念に基づき、グローバル社会で主体的に役割を担える女性の育成を目的とする。在学中に次の力を高めることを教育目標としている。

［知識・技能］教養と専門知識・技能を身につけ社会に貢献する力

［自主・自律］主体性をもって挑戦し最後までやり遂げる力

［協働・調和］自らに誇りを持ち多様な人々と協働する力

1. 将来計画

A.　社会人対象大学院の開設

専門職育成とキャリア支援を目的に、社会人が学びやすい環境とプログラムを開発した。

① 生活機構研究科生活文化研究専攻と福祉社会研究専攻に、社会人対象の 1 年制コースを開設した。

② 2022 年度から大学院 1 年制コースの拡充および新プログラム開講の準備を行った。
大学院文学研究科 言語教育・コミュニケーション専攻に、1 年間で修士号と中学校・高等学校教諭専修免許状の取得を目指す社会人対象の「英語教育専修コース」の開設準備を行った。
生活機構研究科生活文化研究専攻に「アーキビスト養成プログラム」の開講準備を行った。

③ 2023 年 4 月に大学院生活機構研究科福祉社会研究専攻から 1 年制コースを分離・発展させ、高度専門職、経営者、管理者（リーダー）等の養成を強化した福祉社会・経営研究科福祉共創マネジメント専攻（専門職大学院）の設置を計画し、文部科学省へ認可申請を行った。

B.　2022 年度 学部・学科収容定員変更の準備

学部・学科収容定員の変更を文部科学省へ届け出た。内容は以下の通り。

① 国際学部英語コミュニケーション学科：2022 年度入学定員 199 名から 179 名に変更

② 国際学部国際学科：2022 年度入学定員 100 名から 120 名に変更

③ グローバルビジネス学部会計ファイナンス学科：2022 年度入学定員 60 名から 80 名に変更

④ 人間社会学部初等教育学科：2022 年度入学定員：120 名から 100 名に変更

2. 大学のグローバル化

A. テンプル大学ジャパンキャンパス（TUJ）との連携

① TUJとのダブルディグリー・プログラム第2期生6名が、2021年9月から2年間の予定で留学を開始した。TUJの単位互換プログラムは授業履修生と科目等履修生を合わせて延べ50名となった。

② TUJマネジメント修士課程に関する学部・大学院連携プログラムを開発。本学学士課程修了者の進学について、新たに協定書を締結した。

B. 海外渡航の再開とオンラインプログラム

新型コロナウイルスの影響で各国の渡航制限が長期化したが、ワクチンを接種し予防対策を講じることで一部のプログラムは一定の条件のもとで再開できた。

① 昭和ボストン

2021 年度後期の途中から渡航を再開。英語コミュニケーション学科を中心に、131 名の学生が参加した。昭和ボストン施設内の感染対策、定期的な PCR・抗原検査による感染者の早期発見、発生した場合の隔離対策を徹底し、感染者を最小限に抑えた。また、希望者には日本からオンライン参加することとし、学生の多様なニーズに対応した。

② 交換認定留学／国際学科カリキュラム認定留学

現地の感染状況や受け入れ大学での感染対策などを調査して個別に渡航を判断し、韓国および英国の協定大学へ合計学生 4 名を派遣した。

また、渡航不可とした地域のプログラムや、学生自身の判断により渡航を見送ったプログラムは、引き続きオンライン留学のプログラムを提供し、上海交通大学および淑明女子大学のダブルディグリー・プログラムを含め、延べ 128 名がオンライン留学に参加した。

③ 夏季および春季の短期プログラム

渡航が難しいと判断し、昭和ボストンや協定校でオンラインプログラムを実施した。合計 14 プログラム延べ 139 名が参加した。

④ 韓国・誠信女子大学、中国・上海外国語大学と共同実施する日中韓プログラム

10 月 30 日から 11 月 21 日までの週末にオンラインで実施した。各大学から合計 29 名の学生が参加した。

C. 特別留学生の受け入れ

① 協定校の交換留学生や他大学からの訪問留学生が参加するセメスタープログラム Academic Program（日本語上級）と Intensive Japanese Language Program（日本語中級）をハイフレックス形式で実施した。

② 入国制限の影響で新規留学ビザが発給されず来日の見通しが立たない状況が続いたため、参加者は前期 20 名、後期 15 名となり、うち渡日して対面で参加できたのは 2020 年度から継続する 4 名と新規 1 名にとどまった。

D. Global Network

年度末時点で Global Network の登録学生数は 1,002 名だった。

学生グループ Chawa 主催の交流イベントはオンラインを含め、延べ 166 名の留学生と 187 名の日本人学生が参加した。

E. 海外協定校との連携

米国マサチューセッツ州立セイラム大学と包括協定を締結した。

F. ダブルディグリー・プログラム

① 中国・上海交通大学第 5 期生 17 名、韓国・ソウル女子大学第 2 期生 9 名が、全課程を修了して両大学の学位を取得した。

② 韓国・淑明女子大学校との第 1 期生がプログラムを開始した。

③ 新たにオーストラリア・クイーンズランド大学とダブルディグリー協定を締結し、プログラムが拡大した。

G.　講演会・特別講義の実施

海外協定校などから研究者を招聘し、オンラインによる特別講義を開講した。

① 2021 年 11 月 24・25 日「失われたクメール美術とプノンペン都市計画―クメールの美的観点からプノンペンの都市を考える―」　講演者：カンボジア 王立プノンペン大学　ロイ・レスミー教授

② 2021 年 12 月 4 日「第 5 回 Women Can Change the World」
講演者：ジェームスクック大学 サンドラ・ハーディンク学長、淑明女子大学 チャン･ユンクム総長、王立プノンペン大学 ロイ・レスミー教授、上海交通大学 黄健香 准教授、ベトナム国家大学ハノイ人文社会大学 ファン・ハイ・リン准教授、お茶の水女子大学 佐々木泰子学長　ほか（共催：日本学生支援機構 JASSO）

H.　外国人留学生との交流プログラム

① 外国人留学生の学習支援と学生の異文化交流を目的に、対面やオンラインで交流プログラムを実施した。

② 24 名の留学生が日本語チューター制度を利用。ピアサポーター制度では国内学生 5 名・留学生 5 名が活動した。

③ 留学生との交流プログラム「日本語会話パートナー」では、延べ 36 組の留学生と活動した。

④ 新たなプログラムとして、協定校の在学生とオンラインでお互いの言語を学びあう Language Exchange Partner Program（LEPP）を開発。韓国・淑明女子大学、中国・大連理工大学、イタリア・ヴェネツィア大学およびトリノ大学で学生を募集して 261 組の外国人学生と活動した。

3．教育

A.　教育の質的転換

① 全学科で体系的な教育を行うため、ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーに基づくカリキュラムツリーを作成した。科目の領域や段階性・順次性を視覚化してウェブサイトで公開した。また、両ポリシーに基づくカリキュラムが適切かを検証するシステムを構築し、PDCA サイクルを回せるようにした。

② 教育改善に向けて、入学者累積 GPA や科目別 GP に関する教学 IR データを収集・分析し、改善の方向性を示しながら学科にフィードバックした。

③ 学習経験・学習時間調査を実施し、結果および経年変化を分析し、各学科にフィードバックした。また、4 年間調査を継続したことから、入学時点と 4 年次との比較を行い、教育効果を検証した。

④ 学生の語学力強化と語学力に関する到達目標についてワーキンググループで定め、目標達成のためのアクションプランを制定した。

⑤ 新型コロナウイルス感染症予防対策に対応し、ハイフレックス授業を導入した。

B.　学習支援・キャリア教育

リーダーズアカデミー（オナーズクラス）

各学科の 2・3 年生 19 名が参加し、「SDG s 」をテーマにして、対面とオンラインを組み合わせながらプロジェクト活動に取り組んだ。このうち精進料理チームが SDGs 探究 AWARDS2021（主催：一般社団法人 未来教育推進機構）の審査員特別賞を受賞した。

学生チームの発表テーマ（4 テーマ）

コスメチーム	Sustainable Choices　～輝きコスメの闇に迫る？～
精進料理チーム	Daily 精進いかがでしょう　～一食からの環境貢献～
住居×エネルギーチーム	森のなかに住む　～エクセルギーハウスって？～
お米チーム	やっぱりごはんでしょ！～みんなが得するお米の話～

外部から招へいした講師とテーマは次の通り。(5 件)

講師	テーマ
アクアスフィア・水教育研究所代表　橋 本 淳 司 氏	世界と日本の水事情
京都大学人文科学研究所　藤 原 辰 史 准教授	農と食から世界を考える
日本画家　磯 崎 菜 那 氏	自分史上最好の作品をつくろう
アイセイ薬局 HGM 編集部　門田伊三男 編集長 ほか	ヘルス・グラフィックマガジン 表紙アイディアワークショップ
コスモボックス株式会社　古 新　　舜 代表取締役	シネマ・アクティブ・ラーニング

C.　FD 活動

① アンケート

受講学生数 10 名以上の全授業科目を対象に、オンラインで授業改善アンケートを実施した。

アンケート結果をもとに担当教員が授業改善報告書を作成して学内サイトに掲載した。各学科とセンターが作成した学科別授業改善報告書は大学ホームページに掲載した。

大学院はカリキュラム、授業、研究環境を評価する FD アンケートを全正規学生にオンラインで実施した。アンケート結果を各研究科教授会で報告し、専攻ごとの改善報告書を大学ホームページに掲載した。

② FD 講演会

開催日	テーマ・講師
オンライン 6 月 16 日 16:30～17:45 参加者数：210 名	テーマ：ハイブリッド型授業の実践とポストコロナを見据えた展開 講　師：浦田 悠 氏・村上正行 氏（大阪大学 全学教育推進機構 教育学習支援部）

③ FD サロン

開催日	テーマ・発題者
対面・オンライン 10 月 6 日 15:00～16:00 参加者数：88 名	テーマ：ハイブリッド授業 ○ 第 1 グループ タイトル：手軽にできるアクティブなオンライン授業への挑戦 発題者：初等教育学科 白數哲久 准教授・現代教養学科 天笠邦一 准教授 ○ 第 2 グループ タイトル：オンライン授業で失われたもの 発題者：日本語日本文学科 須永哲矢 准教授・笛木美佳 准教授 ○ 第 3 グループ タイトル：オンライン授業における評価の在り方 発題者：英語コミュニケーション学科 鈴木博雄 教授

④ 新任教員研修

建学の精神・理念を踏まえ、教育の特色や制度について理解を深めることを目的に新任教員研修を実施した。

開催日	主なテーマ
3 月 26 日 13:00～15:50 参加者数：13 名	1. 本学の FD 活動について 2. 教学全体にかかわる取り組みについて 3. 学生の進路・キャリア支援体制について 4. 本学の入試・学生募集等について 5. 学生支援・クラス運営について 6. 国際交流・留学について 7. 本学の研究支援について 説明者：FD 推進委員長、教務部長、キャリア支援部長、アドミッション部次長、学生部長、副学長（グローバル推進担当）、副学長（研究担当）

⑤ 学科・センター内 FD

教員の実践的指導力向上と教育活動の組織的改善を目的として学科・センター内 FD を実施した。
前期に各学科・センターで重点目標と実施計画を立案。授業公開や意見交換、勉強会などを実施して年度末には結果を報告した。学科・センター内 FD の内容は学内で公開。各学科の FD 活動の現状を把握・共有した。

4. IR

A. IR 推進専門委員会

大学部局長会の専門委員会として IR 推進専門委員会を設置。ワーキンググループを立ち上げて IR に関する企画・分析を進めた。(7 回)

開催日	主なテーマ
4 月 28 日	2021 年度活動方針の検討
5 月 26 日	科目別・学科学年別 GPA 分析
7 月 21 日	分析項目検討
11 月 10 日	科目別 GPA 分析、外れ値分析、就職状況（ダブルディグリー取得者）
12 月 8 日	学科学年別 GPA 分析、入学年次別 GPA 分析
1 月 26 日	入試別 GPA 分析、オンライン留学効果測定
3 月 9 日	開講中心年次科目数の学科比較、データサイエンス科目分析、2021 年度活動結果と 2022 年度活動方針の検討

[科目別・学科学年別 GPA 分析]

学科の計画通りに「学修成果が得られているか」、「成績評価が適切にされているか」を確認するため、毎年実施している。ヒストグラムや箱ひげ図を作成し、経年比較・学科比較等を実施した。

[外れ値分析]

科目別 GPA について、分布や発生要因を分析した。

[データサイエンス科目分析]

2021 年度開設のデータサイエンス科目について、履修状況（学科・学年比率)、成績、履修継続率等を分析した。

B. 学長・副学長、教務部委員会への情報提供

学科の計画通りに学修成果が得られているか、成績評価方法が適切か、教育課程は適切か等の検証を目的とし、今年度分析結果を学長・副学長、教務部委員会に報告した。(2 回)

C. 研修

IR の企画や実施方法等に関する研修会を定期的に受講した。

5. 研究所

各研究所の活動は以下の通り。

A. 近代文化研究所

① 「学苑　昭和女子大学紀要」刊行（「学苑」誌名・刊行頻度変更、季刊・総論文数 20［研究ノートを含む］）

内容	論文数
2021 年 7 月　第 966 号	4
9 月　第 967 号	1
2022 年 1 月　第 968 号	5
3 月　第 969 号	10

② 「近代文化研究所紀要」刊行（「学苑」から分離独立。年刊・継続後継誌［研究ノートを含む］）

内容	論文数
2022 年 1 月　第 17 号	2

③ 刊行物

『夏目漱石　修善寺の大患前後　―昭和女子大学図書館近代文庫蔵 新資料を加えて―』刊行
（吉田昌志・笛木美佳・福田淳子・福田委千代・山田夏樹著・289 頁・菊判・500 部）

④ ブックレット

近代文化研究叢書 16『「古事記」にみる敗者の形象』　（烏谷知子著：157 頁　B5 判・300 部）

⑤ 公開シンポジウムの開催（2021 年 7 月 17 日（土）13:30～16:00 実施）

第 1 回公開シンポジウム「今なぜ「あしたのジョー」か」（オンライン同時配信）

⑥ 所員勉強会開催（1 回）

内容	開催日
横浜市大倉山記念館の意匠―大倉邦彦と長野宇平治の理念― 星原大輔氏（大倉精神文化研究所研究部長）	12 月 8 日

B. 女性文化研究所

① 研究会開催（2 回）

内容	開催日・実施方法
「日本における女性とスポーツ」　報告者：稲澤裕子 特命教授	6 月 23 日・オンライン
研究員・特別研究員研究合同研究報告会	2 月 3 日・オンライン

② シンポジウム開催（3 回）

タイトル	内容	開催日・実施方法
女性文化研究叢書第12集刊行記念 シンポジウム 女性リーダー育成への挑戦 ～企業の女性への調査結果から～	前年度刊行の『女性文化研究叢書』第12集から企業で働く女性の調査を中心に報告	9月14日・オンライン

タイトル	内容	開催日・実施方法
第5回 Women Can Change the World -女性は世界を変える：アジア太平洋地域における女性リーダーの育成を考える	海外からゲストを迎え年1回実施するシンポジウム。日本学生支援機構・現代ビジネス研究所・国際交流センターとの共催。 （公財）中島記念国際交流財団からの助成を受け、東京国際交流館で国際シンポジウムを実施。後援：外務省・文部科学省	12月4日・オンライン
人生と組織を変えるリーダーシップ： これからの働き方生き方、組織経営	2020年度に刊行した『女性文化研究叢書』第12集の掲載論文とその後の研究をまとめて報告。	2月5日・オンライン

② 昭和女子大学女性文化研究賞・昭和女子大学女性文化研究奨励賞（坂東眞理子基金）の顕彰（1 名）

第 13 回昭和女子大学女性文化研究賞 (坂東眞理子基金)	日本大学 文理学部 中国語中国文化学科 小 浜 正 子 教授 『一人っ子政策と中国社会』（京都大学学術出版会）
第 13 回昭和女子大学女性文化研究奨励賞 (坂東眞理子基金)	該当者なし

③ 刊行物(4 点)

『女性文化研究所 Newsletter』No.76・77

『女性文化研究所紀要』第 49 号

『第 5 回 Women Can Change The World 実施報告書』

C. 国際文化研究所

① 開催行事（5 回）

タイトル（開催場所）	内容
コロナ禍における活動支援 グローバルプレーヤーとしての女性～持続可能な社会環境に関わる女性の役割～	女性リーダー達の観光再開活動を支援。 ドンラム村ではアオザイコンテスト、小物コンテストを開催して土産物の開発を支援。カイベーではフェンスコンテスト、船着き場や橋・看板などの観光インフラを美化して観光客の利便性・快適性向上の活動を支援した。
ベトナム持続可能な観光地区の衣食住祭礼の地域比較研究と観光再開支援	コロナ禍により現地活動は中止。ホイアン文化遺跡保存センター要請の GIS による町並み保存 DATA 管理システムの構築と観光ツールの開発、ホイアンの祭礼衣装の調査を実施して観光再開に備え、観光体制作りを支援した。
国際ザインシンポジウム 次世代動物性タンパク質を 考える	セッション 1 では、オオニシのリサーチ口頭発表と、ゲストスピーカーの寄稿論文 3 編の発表を行った。セッション 2 では、参加者全員でディスカッションを行い、全体でおよそ 3 時間近いシンポジウムとなった。
グローバルセミナー アレクサンドラ・コヴァチュ駐日大使の講演	日本とセルビア交流 140 周年を迎え、セルビア大使に記念講演を依頼した。セルビアの歴史、日本とセルビアの関係、セルビアのジェンダー問題、女性の地位向上や今後の展望まで幅広くお話しいただいた。
ウランバートル国際シンポジウム 日本・モンゴル関係の百年 ―歴史、現状と展望	モンゴル国立大学で対面とオンラインで開催。日本、モンゴル、中国、ロシア、韓国等の最新の研究成果を踏まえ、歴史の恩讐を乗り越え日本とモンゴルの友好関係について、多くの知見を得て検討を行った。

② 刊行物（2 件）

タイトル	内容
研究カタログ 20 世紀前半モンゴル語定期刊行物の整理と出版	『満洲国蒙政部発行 Mongγul sedgül「蒙古報」』（昭和女子大学国際文化研究所 2022 年 3 月）を刊行した。日本のいくつかの図書館や研究者個人の異なる号を最大限に収集し、当時の出版状況を反映させカラーとした。
モンゴルと東北アジア研究 7 日本・モンゴル関係の百年 ―歴史、現状と展望	ウランバートル国際シンポジウムで発表された、日本、モンゴル、中国、ロシア、韓国等の研究者たちの最新の研究を、論文報告集とした。2016 年に開催したシンポジウムから毎年出版、今回で第 7 巻となる。

③ その他（2 件）

タイトル	内容
日本イコモス賞	日本とベトナムとの相互理解の促進に尽力され、もって我が国と諸外国との友好親善に寄与したとして友田博通所長が受賞した。
ハルハ河戦勝 80 周年記念メダル	フスレ教授がノモハン戦争など関係諸国の和解についての研究および日本・モンゴル・ロシア・中国などの学術交流の貢献により、ロシア・モンゴル友好協会よりハルハ河戦勝 80 周年記念メダルを授与された。

D. 生活心理研究所

① 附属心理臨床相談室の運営

「臨床心理士」および国家資格「公認心理師」養成のための大学院生実習施設であり、同時に女性と子どものための相談室として地域の専門機関のネットワークに位置づけられている。

- ○ 相談件数（2021 年度新規＋前年度からの継続件数） 78 件
- ○ 延べ相談回数 309 回

② 公開講座

「学校教育とスクールカウンセリング」をテーマに、鵜養啓子 昭和女子大学名誉教授を講師に招き、公開講座をオンラインで開催した。

演題	講師
学校教育とスクールカウンセリング	鵜養啓子 昭和女子大学名誉教授

③ 修了生臨床心理事例研究会

大学院修了生および大学院生の相互研鑽の場として、心理事例研究会を行った。

④ 刊行物

『生活心理研究所紀要』第 24 号を刊行した。

⑤ 昭和女子大学学術研究委員会の助成による研究

「心理支援専門職として活動する修了生のキャリア形成過程～心理支援専門職のキャリアと今後のリーダーシップ～」 研究代表者：百瀬良

⑥ 社会福祉法人共生会 SHOWA 発達相談室との連携

世田谷区発達障害児支援事業「子育てステーション世田谷・発達相談室」と密に連携し、発達相談活動をサポートした。

2021 年年度は 2020 年度から開始した動画配信によるペアレント・トレーニングを継続しつつ、感染予防対策を行いながら対面でのワークショップを再開した。

E.　女性健康科学研究所

①　公開講座

3 月 7 日に公開講座をオンラインで開催した。

テーマ	女性の健康科学に関する諸問題Ⅴ	
内容	1. 開会のことば	山中健太郎 女性健康科学研究所 所長
	2. カンボジアの食品衛生事情	村 松 朱 喜 専任講師
	3. 睡眠疫学研究	地 家 真 紀 専任講師
	4. COVID-19 流行下における食支援の実態と実践	黒 谷 佳 代 専任講師
	5. 昭和女子大学新入生調査の報告	小 西 香 苗 准教授

②　研究成果

所員 21 名の研究成果の公表は以下の通り。

学術論文等（24 件）

種別	国際学術雑誌	国内学術雑誌	紀要等
件数	15	6	3

学会発表等（8 件）

種別	国際学会	国内学会
件数	3	11

F.　現代ビジネス研究所

①　研究助成金に採択された研究は以下の通り。（11 件）

研究プロジェクト名	学生	研究員名
デジタルプラットフォームの活用研究 ―MaaS にみる共通プラットフォームの現状―	無	江 原 義 之 研究員
産官学連携研究の組織間関係における「異文化理解」の効用	無	川 崎 保 弘 研究員
国際貿易理論「メリッツモデル」からみる地場産業の輸出支援の妥当性	参加	木 村　　誠 研究員
持続可能な地域社会づくりに向けた「地域・産業政策」の 方向性に関する研究	無	熊 坂 敏 彦 研究員
「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋事業)」終了を 踏まえた地域活性化策の研究	参加	熊澤慎太郎 研究員
大規模災害に対応する非常食のローリングストック普及のための 1 週間メニューと災害対応アプリ開発に関する研究	参加	段 谷　　憲 研究員
スマートフォンによるキャッシュレス決済の利用要因 ―利用者の一般的信頼と決済事業者への信頼の役割―	参加	鶴 沢　　真 研究員
アンコンシャスバイアスの克服に関する研究	参加	永合由美子 研究員
マチュア世代の働く女性のセカンドキャリア の意識調査 （セカンドキャリアで働き続けるということ）	参加	西村美奈子 研究員

研究プロジェクト名	学生	研究員名
地域の加工技術とグローバル優位性（4 年目） ～金沢・福井・燕の地場産業と台湾との連携可能性	参加	根 橋 玲 子 研究員
S-LABO 前後における参加学生の内面の変化・広がりに関する一考察 ～ディプロマポリシーの可視化に向けて～	無	矢 島 慶 佑 研究員

② 開催イベント（11 回）

イベント名	登壇者
4 月 24 日 2020 年度研究報告会	助成金採択研究員、プロジェクト参加学生
5 月 22 日, 6 月 25 日、7 月 17 日 ［研究員ピアサポート 勉強会］ 研究テーマ設定コース	大 賀　 暁 研究員
5 月 28 日、6 月 19 日、7 月 10 日 ［研究員ピアサポート 勉強会］ 研究方法探索コース	宮 脇 啓 透 研究員
6 月 26 日 ［公開講座］ 今さら聞けない、オンライン会議ツールの使い方	下 村 良 幸 情報メディア課係長
12 月 4 日 Women Can Change the World ～Women's Leadership in Asia-Pacific Region～ 女性は世界を変える ～アジア太平洋地域における 女性リーダーの育成を考える～	サンドラ・ハーディング ジェームスクック大学 総長・学長 張倫昤 淑明女子大学校 総長 ロイ・レスミー 王立プノンペン大学 教授・副学部長 ファン・ハイ・リン ベトナム国家大学・ハノイ人文社会科学大学 東洋学部日本研究学科 准教授 黄建香 上海交通大学外国語学院日本語学科 准教授 佐々木泰子 お茶の水女子大学 学長 坂東眞理子 昭和女子大学 理事長・総長 小原奈津子 昭和女子大学 学長 志摩園子 昭和女子大学 副学長 西川寿美 昭和女子大学教授 吉野利雄 独立行政法人日本学生支援機構 理事
3 月 14 日 ［研究セミナー・特別公演］ 「新しい資本主義」の批判 ～旧い規制の改革を通じた市場型資本主義へ～	八代尚宏 現代ビジネス研究所 所長・昭和女子大学 副学長

③　認定プロジェクト

研究所のプロジェクト活動は以下の通り。(28 件)

*はインターンシップ

プロジェクト名	協働企業等	参加 学生数
地場産業共創プロジェクト －産直あぐりとのコラボ商品開発－	株式会社産直あぐり（山形県鶴岡市）	16 名
東急電鉄×昭和女子大学プロジェクト	東急電鉄株式会社	16 名
Sanchart（サンチャート）	世田谷美術館	9 名
木曽漆器デザインプロジェクト	一般財団法人塩尻・木曽地域 地場産業振興センター	12 名
エミリーキッズラボ「AI 時代に輝く力をはぐくむ」教室　開校プロジェクト	株式会社ビスタクルーズ エミリーママ事業部	17 名
戦後史史料を後世に伝えるプロジェクト ―被団協関連文書―	特定非営利活動法人ノーモア・ヒバクシャ 記憶遺産を継承する会	18 名
近現代美術の保存に向けたアーティストインタビュー・アーカイブ構築プロジェクト	The Getty Research Institute	18 名
「女性とがん」をめぐる問題から 「一歩を踏み出す」プロジェクト	一般社団法人 全国がん患者団体連合会、キャンサーソリューションズ株式会社	25 名
Hult Prize Project	Hult Prize Japan	18 名
パルコ×昭和女子大学 クラウドファンディングプロジェクト	株式会社 PARCO	若干名
昭和女子大学×駒場東邦中学校「女子大学生と男子中学生が一緒に考える」プロジェクト	私立駒場東邦中学校	15 名
「女子大生が恋する！」井の頭線プロジェクト	京王電鉄株式会社	11 名
株式会社三恵×昭和女子大学 ファーストブラプロジェクト	株式会社三恵	15 名
中野区商店街活性化プロジェクト	西武信用金庫、株式会社 JTB	若干名
昭和女子大学×ScrolR&D「一人を楽しむ」プロジェクト	株式会社スクロール R&D	7 名
ブラックラムズパートナーシッププログラム	株式会社リコー	19 名
品川多世代共生シェアハウス企画プロジェクト	株式会社ケアメイト	若干名
英語で STEAM 教室プロジェクト	テンプル大学ジャパンキャンパス	若干名
カルビー x 昭和女子大学産学連携プロジェクト	カルビー株式会社	若干名
久慈市インバウンド戦略プロジェクト*	岩手県久慈市役所	6 名
多気町応援プロジェクト *	三重県多気郡多気町	6 名
鶴岡再発見 ～先端と伝統文化の魅力発信～*	山形県鶴岡市	6 名

プロジェクト名	協働企業等	参加学生数
東伊豆町魅力発信プロジェクト *	静岡県東伊豆町	6 名
江戸文化の残る浅草の魅力を伝えるプロジェクト*	東武鉄道株式会社	6 名
東洋文庫 Student Internship Program *	公益財団法人東洋文庫	4 名
食を通じた地域支援応援プロジェクト*	世田谷社会福祉協議会、世田谷コミュニティ財団、北沢おせっかいクラブ	30 名
海と山と里、魅力発見プロジェクト －大井町・松田町－*	神奈川県大井町役場、神奈川県松田町役場、東明学林学寮	9 名
やってみるっぺ館山*	千葉県館山市役所、望秀海浜学寮	6 名

④ ビジネススキルセミナー

ビジネススキルセミナーを開講し、企業連携活動に参加する学生の支援体制を強化した。(9 回)

講座名	参加人数
全体説明会	－
プロジェクト参加前に知っておくべきこと	65 名
プロジェクトを動かす～実務で知っておくべきこと～	65 名
地方創生のために何ができるか	58 名
初めてのビジネスプランの立て方	54 名
チーム・ビルディングとコミュニケーション	45 名
初めての企画書作成と「伝わる」プレゼンテーション	45 名
PDCA サイクルを回そう～Check、Action を中心に～	37 名
かんたん戦略作り入門	38 名

⑤ プロジェクト活動支援

職員ファシリテーター4 名、スチューデント・アドバイザー5 名を任用し、プロジェクトの運営を支援した。

⑥ 刊行物

『現代ビジネス研究所紀要』2021 年度版（ウェブサイト）

G.　現代教育研究所

①　公開行事（11 回）

行事名	実施日
理科教育実践講座計6回 プログラミングを子どもに教える教え方を考える STEM教育を体験しよう-紙で作る扇風機－ 塩のふしぎな力発見！－食塩水で石鹸をつくろう－ STEM教育とプログラミングの接続を考える バネの仕組み＆3色LEDの混ぜ合わせ 磁石の性質を知ろう＆風力発電器を作ってLEDを点灯しよう	5 月 29 日 6 月 26 日 7 月 25 日 8 月 28 日 9 月 26 日 11 月 3 日
日本語幼稚園オンライン集会:ママ、パパ、先生、集まりましょう	8 月 11 日
秋桜祭にて人形劇『桜の夢』の配信と上映	11 月 13,14 日
第二回教員育成セミナー	12 月 5 日
2021年度現代教育研究所オープンラボ：「食をめぐる学びの冒険 ～教科等横断で共創する授業づくりへの招待～」（オンライン開催）	2 月 27 日

②　グループプロジェクト活動（延べ 131 回）

2021 年度より研究内容別のグループから研究プロジェクト単位での活動に変更した。

プロジェクト名	活動内容	実施回数
リーダーズアカデミー	SDGs 達成に向けた私たちの貢献をテーマに「共創する学び」の実践講座（有志学生対象）	35 回
Co-Creative Learning Session in SHOWA	SDGs 達成に向けた私たちの貢献をテーマに「共創する学び」の実践講座（有志生徒対象）	35 回
理科授業のヒントになる動画の配信	公開講座による実践的検討、STEM 教育実践動画作成、研究報告書作成	10 回
英語の絵本を作ろう	昭和小学校アフタースクールに通う小学生を対象に自分のことを英語の絵本にする活動を実施	5 回
英語読書会	Shawn Loewen 著 Introduction to Instructed Second Language Acquisition 読書会	3 回
グローバル化時代における道徳教育	日本学術会議哲学委員会提言書の内容ついて意見交換	1 回
表現教育による＜深い学び＞の検証	秋桜祭 人形劇『さくらの夢』実演に関する活動	25 回
子ども向けの創作物語による冊子の制作	物語の形式、イラストの検討	4 回
共創する学びへの招待	山口県内の協力校における「共創する学び」の実践と運営	2 回
私学教員育成プログラムの作成	教員研修のための学習会、教職座談会実施等	4 回
コロナ禍における日系幼稚園の現状と課題	オンラインセミナー実施	3 回
教員・保育者志望高校生の養成校への接続に向けた教材開発②	開発打ち合わせ	3 回

プロジェクト名	活動内容	実施回数
トルストイの教育論を読む	国民教育について（第一論文）の講読	1回

③　刊行物（5冊）

『現代教育研究所紀要』第7号

『現代教育研究所ニューズレター』第9号

『EduMate：昭和女子大学教職課程研究報』vol.6

『メイキング・オブ・コクリ』

『理科教育研究グループ研究報告書（旧：科学大好きな子供を育てる）』vol.4　（Web版）

6. 研究

A. 学術研究委員会　成果報告会の開催

学術研究委員会で学術研究のブランディングを 3 年間研究し、成果報告会を開催して学内外に公開した。

B. 昭和女子大学研究助成金

研究意欲に溢れた教員、特に若手教員への財政支援を通して、研究活動の促進を図ることを目的とした常勤教員対象の競争的研究費。2021 年度は 15 件を採択した。

C. 海外学会発表支援助成金

研究のグローバル化推進を目的とした海外の会議やシンポジウム、学会発表に関わる諸経費の助成制度。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、学会開催がオンライン主流となり、今年度から渡航費、対面型の学会参加費のほかに、オンライン参加費も補助対象とした。その結果 2 件の申請があり採択した。

D. 公的研究費・資金

① 科学研究費助成事業　（新規 8 件・継続 42 件［期間延長含む］　合計 50 件）

種別	研究課題	氏名
1［継続］基盤研究(B)	放射光 X 線 CT による非破壊での日本刀の体系的研究：作刀技術解明にむけて	田中眞奈子 准教授
2［継続］基盤研究(B)	外国人労働者の定着促進のための協働型受け入れ環境の構築	近藤　彩 教授
3［新規］基盤研究(C)	川端文学におけるアダプテーションの考察 ―活字から舞台・映像への翻案	福田淳子 准教授
4［新規］基盤研究(C)	評価をめぐるやりとりの分析 －英語母語話者と日本語母語話者の会話を資料として－	山本　綾 准教授
5［新規］基盤研究(C)	多言語多文化社会構築に向けた高大接続のスペイン語教育	小倉麻由子 特命講師
6［新規］基盤研究(C)	乳児保育の質向上を支える対話型園内研修の検討：「食」を通した包括的な園理解から	遠藤純子 准教授
7［新規］基盤研究(C)	「疲労感」軽減効果のある食品成分は「疲労そのもの」を軽減しているのか？	渡辺睦行 准教授
8［継続］基盤研究(C)	英語母語話者の物語コーパスに基づいた慣用句を中心とした絵本教材の作成と提供	金子朝子 教授
9［継続］基盤研究(C)	レビー小体型認知症の鑑別に有用な心理検査バッテリーの検討	村山憲男 准教授
10［継続］基盤研究(C)	学びを学ぶ小学校プログラミング授業と教材開発	森　秀樹 准教授
11［継続］基盤研究(C)	保育所における食事援助の質向上を目指す研修ツールの開発：多職種アプローチを通して	遠藤純子 准教授
12［継続］基盤研究(C)	診療・介護・障害報酬に横断的かつ統合的な財務情報および非財務情報に関する調査研究	井出健治郎 教授
13［継続］基盤研究(C)	戦後日本における世俗の慰霊空間の研究	戸田　穣 専任講師
14［継続］基盤研究(C)	谷文晁一門の研究 ―江戸後期の文人社会における交流を軸として―	鶴岡明美 准教授
15［継続］基盤研究(C)	ムダルニズマ絵画研究 ―ルシニョルとカザスを中心に―	木下　亮　教授

種別	研究課題	氏名
16［継続］基盤研究(C)	古・中英語期における女性聖人伝の系譜研究： Aelfric のテクストと言語を中心に	島 崎 里 子 准教授
17［継続］基盤研究(C)	現代モンゴル語書きことばの形成	呼和巴特爾 教授
18［継続］基盤研究(C)	日本人大学生英語学習者への会話指導における 協働創作文活動を統合した教育法の提案	竹 田 ら ら 特命講師
19［継続］基盤研究(C)	教材開発を目指した高齢者介護施設における新人 新人介護人材育成のプロセスの実態調査	大場美和子 准教授
20［継続］基盤研究(C)	「越境による共創」で創出する中等教育カリキュラム・ オープンイノベーションの探求	緩 利　誠 准教授
21［継続］基盤研究(C)	基礎的な包丁操作スキルを習得させるための バイオメカニクス的根拠と教示方法の明確化	秋山久美子 教授
22［継続］基盤研究(C)	自閉症スペクトラムの対人社会性の解明 －主題統覚検査の物語反応と視覚運動から－	田中奈緒子 教授
23［継続］基盤研究(C)	クエン酸の疲労軽減効果の客観的評価と GADD34 に 着目した分子メカニズムの検証	渡 辺 睦 行 准教授
24［継続］基盤研究(C)	近代初期日本における美術・文化愛好者の再生産過程 ―学校外での教習活動に着目して―	早 川　陽 准教授
25［継続］基盤研究(C)	日本手話における複合述部の統語分析	浅 田 裕 子 准教授
26［継続］基盤研究(C)	知的障害者の中長期のキャリア形成が企業活動に もたらす効果	根 本 治 代 准教授
27［継続］基盤研究(C)	中小食品製造企業における営業担当者の人材育成に 関する研究	清 野 誠 喜 教授
28［継続］基盤研究(C)	DOHaD 概念に基づく次世代を担う女性の出生体重と その後の体格	小 西 香 苗 准教授
29［継続］基盤研究(C)	食品中のニトロ化トリプトファン生成が生体へ 及ぼす影響の解析	川 崎 広 明 専任講師
30［継続］基盤研究(C)	言語マイノリティの医療保障のための患者の権利に 関する比較法的研究	森 本 直 子 准教授
31［継続］基盤研究(C)	認知症高齢者の自立生活支援をめざすヘルパー経験知の 検証と活用	中矢亜紀子 専任講師
32［継続］基盤研究(C)	地域コミュニティとデジタル技術を基盤とした 児童学習センター開発に関する実践的研究	森　秀 樹 准教授
33［継続］基盤研究(C)	MMSE を用いたレビー小体型認知症の簡易鑑別法； 高齢者に負担をかけない新しい評価	村 山 憲 男 准教授
34［継続］基盤研究(C)	グルタミン酸回収機構を調節する神経細胞とアストロサ イトのクロストーク	林 真 理 子 准教授
35［継続］基盤研究(C)	快楽性食欲との関係性からみた抑制機能の操作による 摂食行動の変容可能性	山中健太郎 教授
36［継続］基盤研究(C)	食事栄養因子に基づくアラキドン酸代謝経路における 統合オミクス解析法の確立	花 香 博 美 教授
37［継続］基盤研究(C)	地域コミュニティに基づくメディア・デザイン実践の 方法論に関する研究	鳥海希世子 専任講師

種別	研究課題	氏名
38［継続］若手研究	戦後日本における「若者」を社会問題化する言説のエスノメソドロジー研究	小 川 豊 武 専任講師
39［継続］若手研究	ベニコウジエキスの安全性評価：標準化および医薬品との相互作用を中心に検討	横 谷 馨 倫 専任講師
40［継続］若手研究	貧困に起因する健康問題発症メカニズム解明とこども食堂を介した解決システム構築	黒 谷 佳 代 専任講師
41［継続］若手研究	我が国の小・中学校における STEM 教育普及に向けたプログラム開発と人材育成	白 數 哲 久 准教授
42［継続］若手研究	第二言語の文法知識を運用可能とするコミュニカティブな文法練習方法の検証	大 塲 貴 志 専任講師
43［継続］若手研究	イノベーションの支援者と企業家の利害対立発生メカニズム：利害の経時的変化への注目	三浦紗綾子 専任講師
44［継続］若手研究	19 世紀プロイセンにおけるミュージアム政策の教育思想史的研究	伊 藤 敦 広 専任講師
45［継続］若手研究	子育て家庭に対するソーシャル・サポートが保護者及び子どもに与える効果の検証	野 嵜 茉 莉 専任講師
46［継続］若手研究	多様な情報社会の生成過程を描く：ブータンにおけるビデオゲーム普及を手がかりとして	藤 原　整 特命講師
47［継続］国際共同強化 B	「チンギス・ハーンの長城」に関する国際共同研究基盤の創成	ボルジギン呼斯勒 教授
48［新規］挑戦的研究（萌芽）	近現代アートの保存・継承に向けた収蔵品情報管理・共有システムの構築	田中眞奈子 准教授
49［新規］ひらめき☆ときめきサイエンス	なぜ病気と食品との因果関係がわかるの？－DOHaD 研究？？ってどんな研究	小 西 香 苗 准教授
50［新規］ひらめき☆ときめきサイエンス	染色のなぞを知って My サマーバッグを染めてみよう！	下村久美子 教授

※50 は新型コロナウイルス感染症拡大により中止し、本学独自の取組としてオンラインで実施した。

② JST 国際青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプログラム」（新規 1 件）

種別	交流テーマ	氏名
さくらオンラインプログラム	社会を変える力：グローバル PBL を通じた地域課題解決	藤 原　整 特命講師

E. 共同研究・研究助成等

企業との共同研究・助成を受けた研究は以下の通り。（14 件）

種別	企業等	氏名
共同研究	パナソニック株式会社	森　秀 樹 准教授
共同研究	尾西食品株式会社	調 所 勝 弘 教授 佐 川 敦 子 専任講師
共同研究	株式会社エイジェック	高 尾 哲 也 教授
共同研究	一般財団法人 LINE みらい財団	天 笠 邦 一 准教授

種別	企業等	氏名
共同研究	株式会社エスプリ	本多 ハワード 素子 准教授
共同研究	坂元醸造株式会社	桝 田 和 彌 専任講師 飯 野 久 和 教授
共同研究	国立研究開発法人理化学研究所	川 崎 広 明 専任講師
共同研究	株式会社 USEN	池 上 真 平 専任講師
共同研究	世田谷プラットフォーム（東京都市大学）	番場美恵子 准教授 内 田 敦 子 専任講師 鳥海希世子 専任講師
共同研究	特定非営利活動法人アルコイリス	竹山恵美子 准教授
奨学寄附金	株式会社 G-Foods 貿易	渡 辺 睦 行 准教授
研究助成	公益財団法人三菱財団	大場美和子 准教授
研究助成	公益財団法人村田学術振興財団	ボルジギン呼斯勒 教授
研究助成	金沢大学がん進展制御研究所	須賀比奈子 准教授

7. 学生支援

A. 進路・就職支援

① 社会人メンター

本年度は動画視聴形式にするなど、全てのプログラムをオンラインで実施した。実績は以下の通り。

内容	開催回数	参加学生数
1. 個別メンタリング	申込件数　488 件	実施件数　453 件
2. メンターカフェ	8 回	244 名
3. メンターフェア	22 回	1,130 名
4. ミニメンターフェア	5 日	224 名
合計参加学生数		2,051 名

② 就職支援講座

以下の支援講座を実施した。(137 回、延べ 26,245 名)

内容	実施回数	受講者数
インターンシップ関連	5 回	1,490 名
就職ガイダンス関連	4 回	3,018 名
業界研究講座・セミナー	61 回	1,628 名
職種研究講座	6 回	1,174 名
内定者報告会	3 回	249 名
学内合同企業説明会	11 回	894 名
就職活動基本講座	28 回	5,587 名
公務員・資格取得・模擬試験	2 回	205 名
基礎学力向上・SPI 対策	11 回	6,935 名
海外留学関連講座	1 回	122 名
その他	5 回	442 名

③ 経済同友会によるインターンシップ　(7 社 7 名)

経済同友会「インターンシップの望ましい枠組み」に参加。参加 17 大学・高専 1 校が取り組んだ。女子大は本学、お茶の水女子大学、聖心女子大学の 3 大学。大学 1〜2 年生が原則 1 か月以上の就業を体験する。

アスクル株式会社、イオン株式会社、キッコーマン株式会社、第一生命株式会社、みずほ証券株式会社、株式会社三井住友銀行、三井不動産株式会社の 7 社に 7 名の学生が参加した。

④ インターンシップ

合計 110 の企業・団体で 334 名の学生がインターンシップを体験した。

区分	事業所数	派遣人数
農林水産業・鉱業・建設業	5	11 名
不動産業	6	10 名
製造業	1	1 名
出版・印刷業	3	13 名
卸売・小売業	18	45 名
金融業	9	22 名
運輸業	2	2 名

区分	事業所数	派遣人数
教育・学習支援	1	4 名
医療・福祉	4	16 名
調査研究・専門技術サービス	9	22 名
情報通信業	8	15 名
サービス業	19	47 名
公務	5	5 名
自由応募・プロジェクト型・海外インターンシップなど	34	103 名
合計	124	316 名

B.　卒業者数と就職状況

①　学位授与者数

大学院

研究科	専攻	授与者
文学研究科	日本文学専攻　博士前期課程	0 名
	英米文学専攻　博士前期課程	0 名
	言語教育・コミュニケーション専攻　博士前期課程	5 名
	文学言語学専攻　博士後期課程	0 名
	計	5 名
生活機構研究科	生活文化研究専攻　修士課程	2 名
	生活科学研究専攻　修士課程	3 名
	心理学専攻　修士課程	13 名
	福祉社会研究専攻　修士課程	37 名
	環境デザイン研究専攻　修士課程	3 名
	人間教育学専攻　修士課程	3 名
	生活機構学専攻　博士後期課程	0 名
	計	61 名
大学院計		66 名

前期未修了者を含む。満期退学者は含まない。

大学

学部	学科	授与者
人間文化学部	日本語日本文学科	114 名
	英語コミュニケーション学科	0 名
	歴史文化学科	112 名
	国際学科	1 名
	計	227 名
人間社会学部	心理学科	104 名
	福祉社会学科	88 名
	現代教養学科	115 名
	初等教育学科	114 名
	計	421 名

学部	学科	授与者
生活科学部	環境デザイン学科	199 名
	管理栄養学科	76 名
	健康デザイン学科	75 名
	食安全マネジメント学科	81 名
	計	431 名
グローバルビジネス学部	ビジネスデザイン学科	113 名
	会計ファイナンス学科	58 名
	計	171 名
国際学部	英語コミュニケーション学科	214 名
	国際学科	121 名
	計	335 名
学部計		1,585 名

前期未修了者、早期卒業者を含む。

② 卒業者数と就職状況

大学院

研究科	専攻	修了 満期退学	進学	就職	その他 進学	その他	進学者を 除いた 実就職率(%)
文学	言語教育コミュニケーション専攻博士前期課程	5 名	3 名	0 名	0 名	2 名	0.0%
	文学言語学専攻博士後期課程	4 名	0 名	0 名	0 名	4 名	0.0%
	計	9 名	3 名	0 名	0 名	6 名	0.0%
生活 機構	生活文化研究専攻修士課程	2 名	0 名	1 名	0 名	1 名	50.0%
	生活科学研究専攻修士課程	3 名	0 名	3 名	0 名	0 名	100.0%
	心理学専攻修士課程	13 名	0 名	4 名	0 名	9 名	30.8%
	福祉社会研究専攻修士課程	37 名	0 名	28 名	0 名	9 名	75.7%
	環境デザイン研究専攻修士課程	3 名	0 名	3 名	0 名	0 名	100.0%
	人間教育学専攻修士課程	3 名	0 名	1 名	0 名	2 名	33.3%
	計	61 名	0 名	40 名	0 名	21 名	63.2%
大学院計		70 名	3 名	40 名	0 名	27 名	59.7%

大学

学部	学科	卒業	大学院 進学	就職	その他 進学	その他	大学院進学者 を除いた 実就職率(%)
人間文化	日本語日本文学科	114 名	3 名	98 名	0 名	13 名	88.3%
	歴史文化学科	112 名	4 名	103 名	0 名	5 名	95.4%
	計	226 名	7 名	201 名	0 名	18 名	91.8%
国際	英語コミュニケーション学科	214 名	5 名	195 名	2 名	12 名	93.3%
	国際学科	122 名	1 名	114 名	3 名	4 名	94.2%
	計	336 名	6 名	309 名	5 名	16 名	93.6%
人間社会	心理学科	104 名	6 名	86 名	3 名	9 名	87.8%
	福祉社会学科	88 名	0 名	83 名	1 名	4 名	94.3%
	現代教養学科	115 名	1 名	108 名	0 名	6 名	94.7%
	初等教育学科	114 名	3 名	102 名	1 名	8 名	91.9%
	計	421 名	10 名	379 名	5 名	27 名	92.2%
生活科学	環境デザイン学科	199 名	4 名	173 名	6 名	16 名	88.7%
	管理栄養学科	76 名	1 名	72 名	1 名	2 名	96.0%
	健康デザイン学科	75 名	3 名	71 名	0 名	1 名	98.6%
	食安全マネジメント学科	81 名	1 名	73 名	2 名	5 名	91.3%
	計	431 名	9 名	389 名	9 名	24 名	92.2%
グローバル ビジネス	ビジネスデザイン学科	113 名	1 名	102 名	3 名	7 名	91.1%
	会計ファイナンス学科	58 名	3 名	53 名	0 名	2 名	96.4%
	計	171 名	4 名	155 名	3 名	9 名	92.8%
大学計		1,585 名	36 名	1,433 名	22 名	94 名	92.6%

*前継の人間文化学部国際学科卒業生 1 名を含む。

③　主な就職先

学部学科	職種	主な就職先
人間文化学部 日本語日本文学科	総合職・ 準総合職	三菱ＵＦＪニコス、トラスコ中山、日伝、生活協同組合コープみらい、住商アドミサービス、日本カストディ銀行、学校法人日本女子大学、朝日生命保険、清水建設　など
	一般事務職	東洋建設　など
	営業職	明治安田生命保険、日本生命保険　など
	販売・サービス職	パナソニック　など
	システムエンジニア	富士ソフト、日立システムズ、日本システム技術　など
	教員	埼玉県、神奈川県横浜市、茨城県　など
	公務員	経済産業省、埼玉県　など
	その他	アクセンチュア　など
人間文化学部 歴史文化学科	総合職・準総合職	第一屋製パン、ヤマト運輸、トランスコスモス、ファミリーマート、自由民主党本部、綜合警備保障、イオンリテール、共栄火災海上保険　など
	一般事務職	住友化学、ＴＤＫ、学校法人慈恵大学　東京慈恵会医科大学、ＭＳ＆ＡＤ事務サービス、ジブラルタ健康保険組合　など
	営業職	明治安田生命保険、大塚商会、住友生命保険　など
	販売・サービス職	パナソニック、ＴＯＴＯ　など
	システムエンジニア	三井Ｅ＆Ｓシステム技研、明治安田システム・テクノロジー、ドコモ・データコム、アルファシステムズ　など
	教員	千葉県　など
	公務員	神奈川県大井町、千葉県山武市、小川町役場　など
国際学部 英語コミュニ ケーション学科	総合職・準総合職	日本赤十字社、マイナビ、三井不動産リアルティ、あいおいニッセイ同和損害保険、セブン－イレブン・ジャパン、日本航空電子工業、三菱電機、トランスコスモス、積水ハウス、明治安田生命保険、共栄火災海上保険　など
	一般事務職	アンダーソン・毛利・友常法律事務所、森・濱田松本法律事務所、村田製作所、伊藤忠商事、住友金属鉱山、ＴＤＫ、日本銀行、三菱ＵＦＪ銀行、ＳＵＭＣＯなど
	システムエンジニア	トランスコスモス　など
	販売・サービス職	Ｐ＆Ｇプレステージ、星野リゾート、クリナップ　など
	教員	東京都、千葉県、千葉県千葉市　など

	公務員	東京都足立区、防衛省陸上自衛隊、防衛省航空自衛隊　など
国際学部 国際学科	総合職・準総合職	学校法人東海大学、ネスレ日本、三井住友カード、ＴＤＫ、カプコン、トランスコスモス、湖池屋、伊藤忠テクノソリューションズ、みずほフィナンシャルグループ、日本ヒューレット・パッカード、ローソン、サムスン電子ジャパン、国際協力機構（ＪＩＣＡ）　など
	一般事務職	村田製作所、東ソー、日本軽金属、ＳＵＭＣＯ、防衛省航空自衛隊　など
	営業職	トランスコスモス、明治安田生命保険　など
	販売・サービス職	星野リゾート　など
	システムエンジニア	アルファシステムズ　など
	公務員	東京都八王子市
	その他	エイベックス、米海軍横須賀基地　など
人間社会学部 心理学科	総合職	岡三証券、京葉銀行、トランスコスモス、ツツミ、京王観光、東電用地、三井住友海上あいおい生命保険、富国生命保険、栃木県保健衛生事業団　など
	一般事務職	ディスコ、インターネットイニシアティブ、三井住友トラスト・ビジネスサービス、日本ハウスホールディングス　など
	販売・サービス職	パナソニック　などど
	福祉職	東京都、社会福祉法人県央福祉会　など
	その他	アクセンチュア　など
	公務員	防衛省海上自衛隊、警視庁　など
	システムエンジニア	富士ソフト　など
人間社会学部 福祉社会学科	医療ソーシャルワーカー	国家公務員共済組合連合会　平塚共済病院、ＩＭＳグループ（板橋中央総合病院グループ）、国家公務員共済組合連合会　虎の門病院、加須市役所　など
	総合職	静岡中央銀行、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構、スポーツニッポン新聞社、全国労働者共済生活協同組合連合会（全労済）、全国健康保険協会、社会福祉法人川崎市社会福祉協議会　など
	一般事務職	三井不動産リアルティ　など
	営業職	住友生命保険　など
	企画・広報	トランスコスモス　など
	サービス職	パナソニック　など

	システムエンジニア	日本システム技術　など
	福祉職	神奈川県川崎市、独立行政法人国立病院機構　など
	公務員	埼玉県入間市、法務省出入国在留管理庁　など
人間社会学部 現代教養学科	総合職・準総合職	トラスコ中山、ジュピターコーポレーション、一般財団法人関東電気保安協会、大和リース、セブン－イレブン・ジャパン、タムラ製作所、横河ブリッジホールディングス、あいおいニッセイ同和損害保険、朝日生命保険　など
	一般事務職	明治安田システム・テクノロジー、三井不動産リアルティ、熊谷組、東日本旅客鉄道、伊藤忠ロジスティクス、ＴＤＫ、ＭＳ＆ＡＤ事務サービス株式会社　など
	営業職	日本生命保険、住友生命保険　など
	販売・サービス職	パナソニック、ミリアルリゾートホテルズ　など
	システムエンジニア	ＮＳＤ　など
	企画・広報	トランスコスモス　など
	公務員	神奈川県横浜市、栃木県足利市　など
	その他	聖路加国際病院、防衛省海上自衛隊、順天堂医院
人間社会学部　初等教育学科	小学校・幼稚園教員	埼玉県、東京都、神奈川県横浜市、静岡県、栃木県、千葉県、千葉県千葉市、神奈川県相模原市、東京都町田市、東京都世田谷区　など
	保育士	神奈川県横浜市、東京都江東区、東京都世田谷区、千葉県千葉市、神奈川県川崎市、東京都杉並区、埼玉県草加市、東京都文京区、埼玉県春日部市、千葉県浦安市、東京都港区、東京都大田区、東京都墨田区など
	総合職・準総合職	常陽銀行、日本出版販売、共栄火災海上保険、東海東京フィナンシャル・ホールディングス　など
	一般事務職	三菱ＵＦＪ銀行　など
	編集、記者職	日本放送協会（ＮＨＫ）　など
	福祉職	公益財団法人児童育成協会　など
生活科学部 環境デザイン 学科	建築技術・設計職	東京都世田谷区、東京都足立区、神奈川県、山梨県甲府市、熊谷組、三井ホーム、鹿島建設、五洋建設、清水建設、戸田建設、ＮＴＴファシリティーズグループ　など
	総合職、準総合職	タカラスタンダード、青山商事、大塚商会、オンワード樫山、ＳＢＳリコーロジスティクス、ＬＩＸＩＬ、(独) 地域医療機能推進機構（ＪＣＨＯ)、栃木建設業協会　など
	一般事務職	三井不動産リアルティ、東洋建設、村田製作所、鹿島建設、三菱ＵＦＪ銀行　など
	営業職	日本生命保険、旭化成ホームズ、ＵＳＥＮ－ＮＥＸＴ　ＨＯＬＤＩＮＧＳ　など

	販売・サービス職	星野リゾート・マネジメント、パナソニック、クリナップ　など
	システムエンジニア	ドコモ・データコム　など
	教員	千葉県　など
生活科学部 管理栄養学科	栄養士・管理栄養士	神奈川県横浜市、東京都西東京市、東京都調布市、杏林大学医学部附属病院、東京都八王子市、東京都荒川区、神奈川県川崎市、東京都小平市、日清医療食品、ＬＥＯＣ、三鷹市役所、独立行政法人国立病院機構、学校法人慈恵大学　東京慈恵会医科大学附属病院、エームサービスジャパン、茨城県庁　など
	総合職・準総合職	にんべん、ニチレイフーズ、マルハニチロ食品　など
	公務員	埼玉県狭山市、神奈川県厚木市　など
生活科学部 健康デザイン 学科	栄養士	日清医療食品、ＬＥＯＣ、エームサービスジャパン　など
	総合職	はごろもフーズ　など
	一般事務職	明治安田システム・テクノロジー、三井不動産リアルティ、住友電気工業、住友金属鉱山、山星屋　など
	営業職	敷島製パン　など
	サービス職	クリナップ　など
	システムエンジニア	ＭＳ＆ＡＤシステムズ　など
	教員	栃木県　など
生活科学部 食安全マネジ メント学科	総合職	三井不動産リアルティ、紀文食品、栃木銀行、セブン－イレブン・ジャパン、スタンレー電気、日本アクセス、ファミリーマート　など
	一般事務職	横浜冷凍、東京エレクトロン　など
	営業職	敷島製パン　など
	販売・サービス職	パナソニック　など
	システムエンジニア	NTT データスマートソーシング　など
グローバル ビジネス学部 ビジネス デザイン学科	総合職・準総合職	目黒信用金庫、住友不動産販売、栃木銀行、ソフトバンク、ウシオ電機、中央労働金庫、日本ケミコン、日本通運、富士通、トランスコスモス、コーセー、日本ヒューレット・パッカード、ローソン、三井住友海上火災保険、清水建設　など
	一般事務職	住友電気工業、近鉄エクスプレス、三井住友建設、三菱ＵＦＪ銀行　など
	営業職	第一生命保険、住友生命保険、リコージャパン　など

	販売・サービス職	星野リゾート　など
	システムエンジニア	日本電気（ＮＥＣ）、伊藤忠テクノソリューションズ　など
	公務員	東京都世田谷区、茨城県警察本部　など
グローバル ビジネス学部 会計ファイナンス学科	総合職・準総合職	マイナビ、いちよし証券、日本ケミコン、セコム、みずほ証券、三井住友信託銀行、共栄火災海上保険、清水建設、明治安田生命保険、富国生命保険　など
	一般事務職	PwC ビジネスアシュアランス、明治安田システム・テクノロジー、東海澱粉、日本航空電子工業、若築建設、ＰｗＣ京都監査法人
	営業職	住友生命保険　など
	企画・広報	トランスコスモス　など
	システムエンジニア	日本電気（ＮＥＣ）、日本アイ・ビー・エム　など
	公務員	厚生労働省、小山市役所　など

④　主な進学先

学部名	進学先大学院等
人間文化学部	昭和女子大学大学院
国際学部	宮城教育大学教職大学院、テンプル大学大学院、昭和女子大学大学院
人間社会学部	山形大学大学院、横浜国立大学教職大学院、昭和女子大学大学院
生活科学部	東北大学大学院、順天堂大学大学院、昭和女子大学大学院
グローバルビジネス学部	青山大学大学院、明治大学大学院、立教大学大学院

8. 地域貢献・連携活動

A. ことばの相談室

人間社会学部福祉社会学科「ことばの相談室」は、地域住民に対し以下の活動を行った。

開設日数＝103 日	新規相談者数＝55 名	延べ人数＝240 名

B. 区立小中学校との連携

教育支援ボランティアとして区内小中学校へ 16 名の学生を派遣した。

C. 提携教育委員会との連携

心理支援コミュニティサービスラーニングで連携する 2 つの行政機関と連携事業に取り組んだ。

D. 学生のボランティア活動

以下の東日本大震災被災地の継続応援活動を行った。

① 「黄色いハンカチプロジェクト」協力参加
震災の風化を防ぎ記憶を残そうと町民有志が始めた試み。3 月 11 日に JR 女川駅前に黄色いハンカチ約 700 枚を掲げる計画へ全学的に募集し 68 枚のメッセージを入れたハンカチを送った。

② 「女川の昨日・今日・明日－学生メッセージ」の展示
1 月 29 日から 2 月 3 日まで、女川町役場のエントランスで写真展示を行った。

③ 世田谷区主催「せたがや学生ボランティアネットワーク」への協力
学生ボランティアコーディネーター（ENVO）から 4 名が参加した。

E. 輝け☆健康『美』プロジェクト

健康デザイン学科、管理栄養学科、食安全マネジメント学科を中心に全学的な取り組み「輝け☆健康『美』プロジェクト」を実施した。

学内外の健康増進活動は以下の通り。（5 件）

プロジェクト名	協働企業等	参加 学生数	一般 参加者
H&B メニュー提案 TUJ コラボプロジェクト 「世界食堂」を含む	学生食堂ソフィア	17 名	多数
JA☆ベジラボ	JA 全農かながわ 三浦市農協協同組合 よこすか葉山農業協同組合 百貨店玉川高島屋 JA 農協本社のミノーレ弁当販売所	30 名	－
宇宙食のコンセプトから作る次世代メニューの提案と実践	日本科学未来館 株式会社ノムラデベロップメント	39 名	－
ミャンマーコーヒーを広めよう	NPO 法人アジアケシ転作機構	15 名	－
ブロッコリースーパースプラウトを用いたレシピ開発	株式会社村上農園	24 名	－
黒玉ねぎレシピ・販売開発 協働プロジェクト	株式会社エイジェック	22 名	

F. 公開講座

社会人を対象に実施した公開講座は以下の通り。(2 回)

講座名・講師名	開講日	受講者
今さら聞けない、オンライン会議ツールの使い方 情報メディア課　下村良幸 氏	6 月 26 日	159 名
Women Can Change the World ～Women's Leadership in Asia-Pacific Region～ 女性は世界を変える ～アジア太平洋地域における女性リーダーの育成を考える～ サンドラ・ハーディング ジェームスクック大学 総長・学長 張倫昤 淑明女子大学校 総長 佐々木泰子 お茶の水女子大学 学長 ロイ・レスミー 王立プノンペン大学学部 教授・副学部長 ファン・ハイ・リン ベトナム国家大学 ハノイ人文社会科学大学 東洋学部日本研究学科 准教授 黄 建香 上海交通大学外国語学院日本語学科 准教授	12 月 4 日	392 名

G. 企業協働プロジェクト

企業協働プロジェクトの実績は以下の通り。(28 件)

プロジェクト名	コラボレーション企業等	参加 学生数
地場産業共創プロジェクト －産直あぐりとのコラボ商品開発－	株式会社産直あぐり（山形県鶴岡市）	16 名
東急電鉄×昭和女子大学プロジェクト	東急電鉄株式会社	16 名
Sanchart（サンチャート）	世田谷美術館	9 名
木曽漆器デザインプロジェクト	一般財団法人塩尻・木曽地域地場産業振興センター	12 名
エミリーキッズラボ「AI 時代に輝く力を はぐくむ」教室　開校プロジェクト	株式会社ビスタクルーズ エミリーママ事業部	17 名
戦後史史料を後世に伝えるプロジェクト ―被団協関連文書―	特定非営利活動法人ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会	18 名
近現代美術の保存に向けたアーティスト インタビュー・アーカイブ構築プロジェクト	The Getty Research Institute	18 名
「女性とがん」をめぐる問題から 「一歩を踏み出す」プロジェクト	一般社団法人 全国がん患者団体連合会、 キャンサーソリューションズ株式会社	25 名
Hult Prize Project	Hult Prize Japan	18 名
パルコ×昭和女子大学クラウドファンディング プロジェクト	株式会社 PARCO	若干名
昭和女子大学×駒場東邦中学校「女子大学生と 男子中学生が一緒に考える」プロジェクト	私立駒場東邦中学校	15 名
「女子大生が恋する！」井の頭線プロジェクト	京王電鉄株式会社	11 名
株式会社三恵×昭和女子大学 ファーストブラプロジェクト	株式会社三恵	15 名
中野区商店街活性化プロジェクト	西武信用金庫、株式会社 JTB	若干名

プロジェクト名	協働企業等	参加 学生数
昭和女子大学×ScrolR&D「一人を楽しむ」 プロジェクト	株式会社スクロール R&D	7 名
ブラックラムズパートナーシッププログラム	株式会社リコー	19 名
品川多世代共生シェアハウス企画プロジェクト	株式会社ケアメイト	若干名
英語で STEAM 教室プロジェクト	テンプル大学ジャパンキャンパス	若干名
カルビー×昭和女子大学産学連携プロジェクト	カルビー株式会社	若干名
久慈市インバウンド戦略プロジェクト*	岩手県久慈市役所	6 名
多気町応援プロジェクト*	三重県多気郡多気町	6 名
鶴岡再発見～先端と伝統文化の魅力発信～*	山形県鶴岡市	6 名
東伊豆町魅力発信プロジェクト*	静岡県東伊豆町	6 名
江戸文化の残る浅草の魅力を伝える プロジェクト*	東武鉄道株式会社	6 名
東洋文庫 Student Internship Program *	公益財団法人東洋文庫	4 名
食を通じた地域支援応援プロジェクト*	世田谷社会福祉協議会、北沢おせっかいクラブ 世田谷コミュニティ財団	30 名
海と山と里、魅力発見プロジェクト －大井町・松田町－*	神奈川県大井町役場、神奈川県松田町役場 東明学林	9 名
やってみるっぺ館山*	千葉県館山市役所、望秀海浜学寮	6 名

*はインターンシップ

H. せたがやｅカレッジへのコンテンツ掲載（2 講座）

世田谷区内 6 大学（国士舘大学、駒澤大学、昭和女子大学、成城大学、東京都市大学、東京農業大学）と区教育委員会が、共同で運営する生涯学習 Web サイトに、本学のコンテンツを 2 つ新たに掲載・配信した。

コンテンツ名	講師名
クラシック音楽を聴き流すのはもったいない ～名曲のここが面白い～ Vol.1, Vol.2	大 澤 里 紗 助教
知らないと損する！シニア世代のためのマネー基礎講座 ①～③	関　 憲 治 教授

I. 世田谷プラットフォーム

世田谷区内の 6 大学（国士舘、駒澤、昭和女子、成城、東京農業、東京都市）と世田谷区、区内産業界で形成する「世田谷プラットフォーム」で、連携講座、共同研究、地域交流事業など多方面で連携を図った。

世田谷区の様々なステークホルダーに対し、高等教育・実務教育の提供や地域の課題を解決する研究への協力、学生ボランティア活動等、様々なソリューションを提供した。

9. 図書館

A. 蔵書数と利用状況

① 蔵書数

種別	冊数等	内訳
図 書	590,571 冊	和書　509,606 冊（うち近代文庫 80,511 冊） 洋書　80,965 冊（うち近代文庫　202 冊）
うち電子書籍	7,248 冊	和書　6,348 冊 洋書　900 冊
雑 誌	17,595 タイトル	和雑誌 16,045 タイトル（うち近代文庫　5,103 タイトル） 洋雑誌　1,550 タイトル（うち近代文庫　2 タイトル）
電子ジャーナル＊	18,551 タイトル	
新 聞	161 タイトル	和新聞　146 タイトル（うち近代文庫　109 タイトル） 洋新聞　15 タイトル
視聴覚資料	3,518 タイトル	

＊論文単位で提供の電子ジャーナルを除く

② 利用状況

サービス対象者	延べ入館者数	貸出冊数
大学院生	1,812 名	2,664 冊
学部生	70,237 名	25,600 冊
教職員	7,866 名	6,280 冊
研究所研究員	41 名	22 冊
附属校生徒	101 名	22 冊
ブリティッシュ・スクール・イン・トウキョウ昭和	12 名	6 冊
テンプル大学ジャパンキャンパス	26 名	2 冊
世田谷 6 大学コンソーシアム	25 名	2 冊
他校高校生	24 名	—
その他※	3,533 名	166 冊
合計	83,677 名	34,764 冊

※オープンキャンパス、卒業生、退職教職員、附属校・大学の保護者など

開館日数：272 日

1 日平均入館者数：307.6 名、学生 1 人あたり貸出冊数：4.4 冊

B.　主な活動

① 引き続き新型コロナウイルス感染症予防対策を講じ、学生の学修・研究活動支援、教員の授業・研究活動支援のための非来館型サービスの提供に努めた。主なサービスは以下の通り。

- 学生、大学教員への臨時サービス（複写代行郵送、図書貸出配送）
- 学外からの電子資料、デジタルコンテンツ類の利用環境の整備及び電子書籍タイトル数増設
- オンラインコンテンツおよびセルフラーニングサイト作成（図書館利用案内、蔵書検索の方法・利用案内・貴重資料展示の動画作成、ホームページへのコンテンツ公開）

② 開講期（通常期）月～土曜日の開館時間を 30 分拡大した。

③ 新収を含む貴重資料展を全 4 回開催した。「源氏物語の世界」は、光葉博物館と連携して開催した。
歴史文化学科の歴文 30 周年記念事業プロジェクトからの要望を受け、「歴文 30 周年の軌跡」の展示場所として図書館コミュニティルームを提供した。

④ 中高部からの依頼に応じ、スーパーサイエンスコース授業向けに論文記事検索ガイダンスを実施した。

⑤ 2022 年度からの運営に向けて規程・方針類の策定および改定を行った。

10. 海外研修プログラム

A.　昭和ボストン

①　秋期ボストンプログラム

プログラム名	参加人数
カリキュラム留学（英語コミュニケーション学科、国際学科、ビジネスデザイン学科）	422 名
春季・秋季 15 週間プログラム	3 名
合計	425 名※1

※1 うち 131 名が、後期の後半 7 週間ボストンに渡航

②　ボストン短期オンラインプログラム

プログラム名	参加人数
ボストンサマーセッションオンライン	35 名
ボストン実践英語入門	17 名
合計	52 名

③　春季ボストンプログラム

※昭和ボストン滞在中の学生を対象とする短期プログラム

プログラム名	参加人数
Extension Program	116 名
春季特別プログラム	34 名
合計	150 名

B.　海外協定校ほかプログラム

①　短期オンライン研修プログラム

プログラム名	協定校国名	参加人数
チェンマイ大学 SDGs 英語研修	タイ	13 名
華東師範大学中国語研修	中国	2 名
ソウル女子大学韓国語研修	韓国	13 名
ノーサンプトン大学英語研修	イギリス	1 名
ライプツィヒ大学ドイツ語研修	ドイツ	1 名
ワシントン大学 英語研修 "STEP"	アメリカ	1 名
高麗大学 韓国語集中講座	韓国	2 名
東海大学 Language and Culture Program	台湾	1 名
テンプル大学ジャパンキャンパス SAJ プログラム	日本	1 名
上海交通大学 HSK 対策講座	中国	20 名
淑明女子大学 TOPIK 対策講座	韓国	23 名
バーチャル日中韓プログラム	韓国、中国	10 名
合計 12 プログラム		88 名

② ダブルディグリー・プログラム留学（2 年間）

協定大学	国名	2020 年度開始	2021 年度開始
上海交通大学人文学院	中国	14 名	7 名
淑明女子大学	韓国	—	2 名
テンプル大学ジャパンキャンパス	日本	4 名	6 名
合計 3 大学		18 名	15 名

※オンライン留学を含む

③ 海外協定校との交換・私費留学プログラム（1 セメスター以上）※海外大学日本校を含む

協定大学	国名	派遣	受け入れ
上海交通大学	中国	9 名	0 名
華東師範大学	中国	2 名	0 名
上海理工大学	中国	0 名	3 名
東海大学	台湾	0 名	0 名
ソウル女子大学	韓国	0 名	1 名
漢陽女子大学	韓国	0 名	0 名
国民大学	韓国	2 名	0 名
淑明女子大学	韓国	15 名	1 名
誠信女子大学	韓国	0 名	6 名
ベトナム国家大学人文社会科学大学ハノイ校	ベトナム	4 名	1 名
王立プノンペン王立大学	カンボジア	0 名	11 名
ノーサンプトン大学	英国	1 名	0 名
アルカラ大学	スペイン	18 名	0 名
ヴェネツィア大学	イタリア	0 名	4 名
トリノ大学	イタリア	0 名	3 名
テンプル大学ジャパンキャンパス	日本	50 名	1 名
合計 16 大学		101 名	31 名

※オンライン留学を含む

④ 協定外の海外大学との私費留学プログラム（1 セメスター以上）

協定大学	国名	派遣	受け入れ
西安建築科技大学	中国	0 名	1 名
合計 1 大学		0 名	1 名

※オンライン留学を含む

III　附属昭和中学校・高等学校

教育目標

Society 5.0 が求めるのは技術革新と価値創造を遂げる人材、その成果と社会課題をつなげ新しいビジネスを創造する人材。そこで必要なのが、読解力、対話力、科学的思考力、検証・活用力、そして価値を見出す感性と好奇心、探求力。中学高等学校では、こうした力を育むことを教育目標としている。

A.　企画会の活動

企画会が文部科学省グローカル事業実行委員会、ユネスコスクール推進委員会、ICT 組織を含め、中高部の全活動を統括・管理し、教育のグローバル化を推進した。

中学 1 年生からスーパーサイエンスコースを設置し、理系分野で社会貢献する人材の育成に取り組んだ。中学志願者数も大幅に増加した。

B.　文科省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業〔グローカル型〕」に関する取組

①　グローバルプログラム

LABO 研究　4 つの研究活動を通年で実施した。(高校 1・2 年生選抜制で 29 名が参加)

LABO1 (8 名参加)	研究テーマ：次世代を担う私たちが考えるキャリアデザイン 研究指導者：　上智大学　日比谷 武 特任教授 10/31　サスティナブル・ブランド国際会議 2022　第 2 回 SB　Student Ambassador ブロック大会参加
LABO2 (9 名参加)	研究テーマ：日本人のジェンダー・ギャップの研究 研究指導者：　昭和女子大学 人間社会学部 伊藤　純 教授 12/17　海城高校生徒とのディベート　12/19　2021 年度　全校高校生フォーラム
LABO3 (7 名参加)	研究テーマ：海外で活躍する日本人リーダーの研究 研究指導者：昭和女子大学 国際学部 米倉雪子 准教授 10/31　カンボジアの高校生との Zoom 交流会　1/8　グローカル・SGH5 校合同カンボジア研修合同研修会（オンライン）参加
LABO4 (5 名参加)	研究テーマ：多文化共生社会とボランティアの可能生 研究指導者：昭和女子大学 グローバルビジネス学部 興梠 寛 特任教授 7/17　伊能さくら氏講演会　参加

②　グローバルイシュープログラム（SDG s キャリア講演）

グローバな視野を育み、将来リーダーとなれる課題解決力、キャリアデザイン力などを身につける活動である。

1 月 25 日	JICA 国際協力出前講座 講師：元シニア海外ボランティア 児 玉 久 美 氏 元青年海外協力隊員 大 橋 恵 美 氏

③　ローカルプログラム

サービスラーニング（地域課題の把握と設定）

○　高校 1 年生前期：世田谷研究

地域探究基礎として、地域の魅力や課題を知るためのフィールドワークを実施。(5 テーマ)

テーマ	訪問先の例	生徒延べ人数
介護	ホスピア三軒茶屋（高齢者介護施設）	5 名
子ども教育	世田谷区子ども家庭支援課、Pista 子ども食堂三軒茶屋、世田谷保育園	50 名
まちづくり	エコプラザ用賀、駒沢オリンピック公園、世田谷区みどり 33 推進担当部	95 名
商店街	下北沢一番街商店街、ブーランジェリーボヌール（製パン）	22 名
動物愛護	東京都動物愛護相談センター、犬猫譲渡センター保護犬猫カフェ	12 名

○　高校 1 年生後期：サービスラーニング（地域課題の把握と設定）

ボランティア活動を通じた地域課題の発見・把握と現状の把握を行い、自分たちが解決すべき課題を検討し具体化する活動。(5 テーマ)

テーマ	主な活動とボランティア先・調査活動先の例	生徒人数
子ども教育	地域の子育て支援、子ども食堂、コロナ渦のストレス軽減、子どもの外遊び 深沢児童館、昭和子ども園、池尻児童館、Pista 子ども食堂、若林子ども食堂、東京育成園、世田谷区児童相談所、世田谷虹の子保育園	38 名
インフラ・防犯	高齢者の暮らしやすい街、世田谷の治安、世田谷の観光客増加策 ホスピア三軒茶屋、三宿つくしんぼホーム、桜新町商店街、東急電鉄株式会社	16 名
環境・福祉	バリアフリー、きれいな世田谷の実現 世田谷区道路・交通計画部、ホスピア三軒茶屋、世田谷プラスチックプロジェクト、千歳清掃工場	21 名
食	フードドライブ、世田谷野菜 PR、商店の活性化、コンビニの食品ロス エコプラザ用賀、リサイクル千歳台、世田谷区清掃・リサイクル部、駒澤オリンピック公園、ファーマーズマーケット、	19 名
動物愛護	捨て猫・捨て犬ゼロ活動、殺処分ゼロに向けた PR 東京都動物愛護相談センター、動物福祉団体 Paver,犬猫食堂	12 名

○　高校 2 年生：サービスラーニング（地域での実践）　(4 テーマ)

地域が抱える課題の解決に向けて、地域と協働してアクションプランを計画・実施を行う活動が 2 年の段階となる。コンソーシアムを活用して関係を構築した地域の団体と協働してプランの提案・実施を行った。

テーマ	主な活動/協働先・活動先の例	生徒人数
子ども教育	子ども食堂の取組、スマホと SNS に潜む危険、子どもの体力低下、待機児童対策 世田谷区子ども家庭支援課、子ども食堂、虹バル、世田谷区立二子玉川小学校、池尻児童館、おでかけひろば SHIP、ドナルド・マクドナルドハウスせたがや、東京育成園、メリーレディースクリニック、いば小児科	51 名
まちづくり	桜新町商店街活性化、三軒茶屋地域活性 PR 三軒茶屋銀座商店街、桜新町商店街、世田谷区産業振興公社	13 名
多文化共生	外国人差別をなくす、外国人の住みやすい生活 昭和女子大学国際交流センター、甘味処甘寛	8 名

テーマ	主な活動/協働先・活動先の例	生徒人数
その他	動物愛護の未来、食品ロス問題 　世田谷保健所、プラットフォーム世田谷、NPO 犬猫譲渡センター、 昭和女子大学附属昭和小学校、学生ボランティア企画団体 NUTS	18 名

C.　教科横断型授業

高校 1 年生で教科横断型の授業を実施。「自分の意見をもつ、データ・資料分析、パフォーマンス（発表)」など探究スキルに通じるテーマで授業を実施した。（6 テーマ）

授業テーマ／タイトル	授業内容
数学を読んで小論文を書こう	論理的な文章を書くために、論拠となる数字を如何に使うか、COP26 を取り巻く数字を使いながら環境問題について小論文を書き上げる。
オリンピック・パラリンピックの歴史から 2020 東京オリンピック・パラリンピックを振り返ろう!	今年・過去のオリパラから、戦争や冷戦などが原因となって開催を中止したり、出場を辞めた経緯がある国があったりしたことを学び、オリンピックが政治と絡んでいる事実を学ぶ。
運動負荷による心拍数の変化と 恒常性	5 分間の全力疾走前後で心拍数がどのように変化するのか、運動後どのように心拍数が回復していくのかを計測、可視化、データ比較を実施する。
江戸時代の文学	江戸時代の文学作品を読み、当時の情勢や流行を分析する。
ポエトリーリーディング ～英詩の朗読会～	ビートジェネレーションが形成したポエトリーリーディングの文化を再現する。英文の朗読あり、人前でのパフォーマンスあり。
ラブレターを読み取られるな!	インターネットを用いた通信をベースに、第三者が通信を盗み見することが可能な状況で、どうやって送信者と受信者だけが内容を理解出来るように通信を行うかを考える。

D.　選択制国内外研修旅行（高校 1 年生）

2023 年 10 月に延期とした。

E.　ユネスコスクール課外授業(オンライン)　対象；全校生徒希望者（3 講座）

5 月 3 日	プラスチック汚染と気候変動　～わたしたちに今、できること～
8 月 15 日	「ごみゼロ宣言」徳島県上勝町　大塚桃奈さんの挑戦 ～私たちに今できること～
12 月 23 日	世界の中の自分を探る　～デンマークとガーナでの体験から日本人として自分を考える～

F.　スピーチ・ディベート・模擬国連の会

中学高校生約 50 名がメンバーとなり、SDG s を柱に様々な活動を行った。国際ボランティア活動「おにぎりアクション」はＢＳＴと協働で実施した。

模擬国連会議へは中学高校生延べ 41 名が計 7 会議と 1 ワークショップに参加し、延べ 7 名が 4 回の入賞を果たした。

G.　教育の質向上

①　校内研修

外部講師を招聘し、以下の研修会を開催した。（5回）

5月24日 6月14日	数学科研修会「高校数学の探究学習について」 講師：成田慎之介 氏
11月17日	小論文指導のための研修会：進路指導部 演題：「小論文・論理的文章指導」 講師：吉 岡 友 治 氏　桐原書店小論文指導書籍 著者
12月21日	教員研修特別講座：教務部 演題：「i-check」について 講師：山 浦 秀 男 氏
3月1日	教員研修会 演題：サステナブルな社会を創る ダイバーシティ＆インクルージョン　想定外時代を生きるために 講師：小嶋美代子 氏 芝浦工業大学非常勤講師・株式会社アワシャーレ 代表取締役
3月24日	附属校合同研修会 ①演題：Well-beingをベースとした学校経営のデザイン 講師：下 町 壽 男 氏 しもまっちハイスクール教育コンサルタント ②　ハラスメント防止研修 演題：しない、受けない、見過ごさない 講師：ティーペック株式会社

②　外部研修会

校務や教科の外部オンライン研修会に、多くの教員が参加した。

H.　海外研修等プログラム

予定していた海外等研修プログラムは中止または延期した。

I.　保護者との連携

保護者会を全3回開催し、夏季休暇中に親子面接を実施した。

保護者による学校評価アンケートを実施した。

J.　進学状況

①　卒業生の進路

内容		人数
大学進学者	併設大学進学者	56 名
	併設大学・五修生進学者	5 名
	他大学進学者	115 名
専門学校進学者		3 名
浪人ほか		10 名
合計		189 名

②　他大学合格実績（延べ数）

国公立	早慶上理	GMARCH	その他大学	合計
3 名	23 名	27 名	147 名	200 名

Ⅳ　附属昭和小学校

教育目標

グローバルな未来に生きる子どもたちに必要な礎として、「確かな学力を育てる教育」の推進と、以下三つの目標を軸に教育活動を展開し、高い倫理観と自立心、豊かな感性も備え持った真の国際人を育てることを教育目標としている。
目あてを指して進む人　／　まごころを尽くす人　／　からだを丈夫にする人

A.　教育の質向上

①　研究会・学会参加を奨励

以下の校内研究・研修会を実施した。

- 情報モラル教育　講師：柏市立手賀東小学校長　佐 和 伸 明 氏
- デジタル教科書を活用した授業作り研修会　講師：光村図書出版　対面・オンライン
- アプリ「スマイル NEXT」研修会
- 教員研修会　講師：千々布敏弥 氏
- デジタルシチズンシップ研修会　講師：今 戸 珠 美 氏
- 全体研究会　オンライン
- 外部講師による初任者研修会　対面・オンライン
- オンライン授業作り研修会　対面とオンライン
- タブレットを活用した授業研究会　オンライン
- アプリ keynote 研修会・全体研究会　オンライン

以下の外部研修会に参加した。

- 教科書デジタル学会発表 2 名（若手優秀賞・奨励賞受賞）
- 東京私立初等学校協会オンライン研修会
- その他外部オンライン研修会

②　教育実習生の受け入れ

昭和女子大学人間社会学部初等教育学科から教育実習生 1 名を受け入れた。

B.　学校活動の充実・強化

①　ICT を活用した授業

タブレットを活用した授業を様々な教科で実施した。特にロイロノートを使用して、課題提示・提出を行った。アクティブラーニングの実現や興味関心を高めながら理解を深める授業を運営した。

②　放課後グローバルプログラム（1 年生対象の英語補習）を開始

１・２年生を対象に、放課後に参加できる「放課後グローバルプログラム」を開始した。

③　テンプル大学ジャパンキャンパスとの交流

テンプル大学ジャパンキャンパスの学生 1 名が英語活動の補助を行った。

④　給食の運営（黙食）

新型コロナウイルス感染拡大対策を講じて、週 5 日給食を提供した。

C.　設備および備品の充実

①　ICT 環境整備

教室の黒板にホワイトボードシートを貼り、教室設置のプロジェクター用スクリーンとして対応可能にした。

第 1 会議室を多目的メディアルームとして活用するため以下の改修を加えた。
前壁の全面ホワイトボード化・天井にプロジェクターとスクリーンを設置した。
第 2 会議室にプロジェクターとスクリーンを設置し、打ち合わせなどで活用できるように整備した。

D.　他部署との連携

① テンプル大学ジャパンキャンパスからインターンシップ学生（1 名）を受け入れ、英語活動を活性化した。
② BST との交流活動（動画での交流）を行った。
③ 渋谷インターナショナルラグビークラブの活動に希望者が参加した。
④ 校外学習として 1・2・3 年生が東明学林、5 年生が望秀海浜学寮を訪問した。

E.　広報活動

① 動画による学校説明会、対面の校舎見学会を開催した。
② 個別相談会をオンラインで実施した。
③ 学外の大手や個人経営の幼児教室を訪問して出前説明会を行った。

V　附属昭和こども園

A.　教育・保育

① 子どもの主体性を大切にし、自らあそび、感じ、考え、表現できる教育・保育環境を継続した。
② 各年齢に応じた発達段階を理解し、園児の主体的な教育・保育プログラムを作成した。
③ 体育・英語・音楽・自然・造形・ダンス等の特別教育の機会を継続した。
④ 教職員で構成される９つのプロジェクトにより、目標を達成するための実践を行った。
⑤ 教育・交流プロジェクトが中心となって、園内研修の充実と自己研鑽の環境を整えた。外部で受けた研修を園内で中心となって教職員に還元し、往還型研修を実現化した。
⑥ こども環境あそびプロジェクトが中心となり、あそび場の充実を図った。
⑦ English Project が中心となり、English でのイベント（ハロウィン・クリスマス）を実施した。
⑧ 音楽プロジェクトが中心となり５周年記念イベントを企画したが､新型コロナウイルス感染の影響で中止となった。
⑨ からだづくりプロジェクトが中心となった取り組みで、子どもたちの怪我や病気が減少した。
⑩ リスクマネジメント・防災防犯プロジェクトを中心に安全性を強化した。

B.　地域貢献

① 新型コロナウイルス感染症予防対策により、子どもの多様な経験や交流の機会を確保できなかった。
② オンラインを利用して地域に向けて昭和こども園の魅力を発信した。
③ 新型コロナウイルス感染症予防対策により、文化・芸術体験事業を中止とした。

C.　異年齢交流

① 新型コロナウイルス感染症予防対策により、他施設との交流を中止とした。
② 幼児クラスにおいて３・４・５歳児の保育室を横並びにして、縦割りの３フロア制とすることで、日々の生活が異年齢との触れ合いとなった。
③ 昭和女子大学生をアルバイトとして多く受け入れた

VI 人見記念講堂

2021 年 7 月 1 日から 2022 年 2 月 28 日まで改修工事を実施した。
2021 年 4 月から 6 月までと 2022 年 3 月の 4 か月間の運営となり、外部団体への貸出日数は 25 日、学園内の使用日数は 53 日だった。
大学で実施した講演会は以下の通り。

A. 女性教養講座（10 講座）

① 創立 100 周年記念特別講座

日付	演題	内容
5 月 1 日	昭和女子大学の未来とビジョンを語る大会議	《全体会》 次の 100 年に向けて 《分科会》 A①：女性の働き方･経済･雇用 A②：女性のリーダーシップの育成 B： Global campus, Global future C：〈人生 100 年時代〉の smart＆active aging D：母校（母港）に期待すること

② 対面・ライブ配信

日付	演題	講師
5 月 19 日	女性と健康 ―幸せな生涯への知恵 （配信のみ）	天 野 恵 子 氏 静風荘病院 循環器内科医・女性外来担当医師
5 月 26 日	私のライフストーリー ～数学とビジネス	鈴 木 雄 二 氏 トライウォールグループ取締役会長・CEO 昭和女子大学 前理事
6 月 16 日	世界平和研究における日本の役割、若者への期待 （配信のみ）	東 大 作 氏 上智大学グローバル教育センター 教授
6 月 30 日	世界の大学教育～これから必要とされる人材	マシュー・ウィルソン 氏 テンプル大学ジャパンキャンパス 学長

③　動画配信

公開日	演題	講師
10 月 1 日	卒業生からのメッセージ ～夢へのプラチナ・パスポート	小 倉　唯 氏 声優・アーティスト
10 月 1 日	「夢の再生医療」を目指して	粂　昭 苑 氏 東京工業大学 教授
10 月 1 日	予測不能な時代を幸せに生きる	矢 野 和 男 氏 日立製作所 フェロー・理事、 株式会社ハピネスプラネット 代表取締役 東京工業大学情報理工学院特定教授
10 月 1 日	Ghosts of the Tsunami: Death and Life in Japan's Disaster Zone	リチャード・ロイド・パリ― 氏 英《ザ・タイムズ》紙 アジア編集長・東京支局長

④　シンポジウム

日付	演題	内容
12 月 4 日	女性は世界を変える アジア太平洋地域における女性リーダーの育成を考える	セッションⅠ　基調講演 セッションⅡ　各国からの報告 参加者とのディスカッション

B.　文化研究講座（7 講座）

日付	演題	演奏者
4 月 22 日	春の名曲コンサート（1 年生対象）	東京２１世紀管弦楽団
5 月 11 日	オペラ「蝶々夫人」	藤原歌劇団
5 月 18 日	弦楽五重奏	森麻季（ソプラノ）&N 響メンバー
5 月 25 日	ヘンデル：オラトリオ《メサイア》	ヘンデル・フェスティバル・ジャパン
5 月 27 日	俳優座劇場プロデュース「罠」	俳優座
6 月 15 日	ディズニー・オン・クラシック～夢とまほうの贈りもの	オーケストラ・ジャパン、二期会
6 月 29 日	林英哲 with 英哲風雲の会	太鼓ユニット「英哲風雲の会」

Ⅶ　光葉博物館

A.　展覧会の開催

実施した展覧会は以下の通り。(5 回)

日程	内容
4 月 2 日～23 日	いこい MUSEUM 春の収蔵資料展「アジア・アフリカの布」
5 月 14 日～6 月 20 日	創立 100 周年記念「想い出の昭和女子大学・三軒茶屋写真展 －100 年分の輝きとともに、ネクストステージへ―」
6 月 29 日～8 月 22 日	夏の収蔵資料展 ①「日本郷土玩具めぐり 博物館実習 I 履修学生による企画展示」 ②特別展示「鏑木清方と近代作家　昭和女子大学図書館コレクション展」
10 月 23 日～11 月 27 日	秋の特別展「被爆者の足跡　―被団協関連文書の歴史的研究から―」
12 月 10 日～2 月 2 日	いこい MUSEUM　図書館・博物館コレクション展「源氏物語の世界」

B.　刊行物

以下の図録などを刊行した。(3 部)

① 秋の特別展「被爆者の足跡　―被団協関連文書の歴史的研究から―」展覧会図録

② 光葉博物館報　№25

③ 「昭和女子大学光葉博物館コレクション 日本の郷土玩具―IV　―車偶庵コレクション―」目録

Ⅷ　ダイバーシティ推進機構

A.　開設講座

会員 39 社を主対象に、キャリアカレッジ・コースプログラム、セミナー・シンポジウムおよび研究会を実施した。

キャリアカレッジ・コースプログラム［オンライン実施］（全 7 コース）

コース名	開講時期と授業時数	受講者数
女性エグゼクティブコース（女性対象）	9 月～2 月　全 6 回	14 名
ダイバーシティを活かすリーダーシップ養成（男女対象）	7 月～10 月　全 4 回	15 名
マネジメントステップアップ（女性対象）	上期コース：6 月～9 月　全 7 回 下期コース：10 月～1 月　全 7 回	計 43 名
男性管理職ダイバーシティ研修（男性対象）	上期：7 月　1 回 下期：1 月　1 回	24 名
女性事業承継者 “跡取り娘”人材育成（女性対象）	7 月～12 月　全 6 回	5 名

B.　セミナー・シンポジウム［オンライン実施］（全 4 回）

実施日	テーマ	参加者数
7 月 1 日	海外働き方事情シリーズ第 5 弾 働き方先進国「オランダ」から学ぶ、幸せになる働き方	58 名
9 月 2 日	障害者雇用の基本と採用のマッチング 自立や成長を視野に入れた定着について	58 名
12 月 10 日	特別公開講演 なぜ、ダイバーシティ経営が企業の持続的発展に欠かせないのか ～ダイバーシティ経営の真の価値とは～	66 名
2022 年 2 月 9 日	【学びの DX】新リモート時代の人材育成 ブレンディッド・ラーニング～社内研修で抜群の成果を上げる最先端の学び方～	37 名
2022 年 2 月 24 日	昭和女子大学エグゼクティブコース 1 期生修了生企画 子宮頸がんについて知ろう　～輝く女性のキャリアのために～	54 名

C.　研究会

ダイバーシティ経営研究会［オンライン実施］（全 4 回）

毎回 25 名程度が参加

開催日	テーマ
10 月 5 日	「イノベーションとダイバーシティ」 講師：knots associates 株式会社 代表取締役/CEO　富 田 欣 和 氏
11 月 9 日	「ダイバーシティ経営」 講師：アクサ・ホールディングス・ジャパン株式会社 代表取締役社長兼 CEO　安 渕 聖 司 氏
12 月 14 日	「ダイバーシティとチームマネジメント」 講師：グーグル合同会社　執行役員営業戦略本部長　田 中 若 菜 氏
2022 年 1 月 25 日	「事業戦略とダイバーシティ」 講師：ユニリーバ・ジャパン・ホールディングス合同会社　取締役人事総務本部長　島 田 由 香 氏

IX　その他の関連事業　社会福祉法人共生会 SHOWA

A.　組織運営

① 社会福祉事業として、認可保育園昭和ナースリー、おでかけひろば SHIP、ほっとステイ SHIP DAY NURSERY、アフタースクールの 4 施設を運営した。また、公益事業として発達相談室、世田谷区立男女共同参画センターらぷらす、川崎市男女共同参画センターすくらむ 21 の 3 施設を運営した。

② 新型コロナウイルス感染拡大に伴う世田谷区所管課などからの指示・要請に対応し、施設の一時利用中止（閉館・閉室など）や利用時間の短縮を行った。

B.　子育てステーション世田谷の運営

下記 4 施設は世田谷区の地域住民が保育・遊び・預かり・相談で利用できる子育て支援総合施設「子育てステーション世田谷」として運営している。

施設名	活動状況
認可保育園 昭和ナースリー	定員 33 名（0 歳児 9 名、1・2 歳児各 12 名） 昭和女子大学社会福祉学科実習生の受入れ、昭和こども園との交流などを実施。 園児の健康を第一に、園内の換気、アルコール消毒の徹底を図りながら運営。2 歳児の大半が昭和こども園へ進級。
おでかけひろば SHIP	世田谷区内の子育て中の家族が集えるひろば事業。スタッフによる日常的な子育て相談、医師や保健婦、看護師などによる子育て講座等を実施。 新型コロナウイルス感染拡大に対応して、定員を 10 組から 6 組に減らして運営。
ほっとステイ SHIP DAY NURSERY	区民であれば理由の如何を問わず預けることができる一時預かり事業。 預かりの対象は、世田谷区在住の生後 4 ヵ月から就学前の子ども。定員を通常の 7 割程度として運営。利用者の利便性向上のため、世田谷区のオンライン予約システムを導入。
発達相談室	昭和女子大学生活心理研究所の協力で子ども（18 歳未満）の発達に関する相談（通常、月 3 回開室）を行っている 新型コロナウイルス感染拡大のため休止していた保護者対象講座(ペアレント・トレーニング)を再開。動画配信も継続している。

C.　昭和小学校アフタースクールの運営

在席児童数は 166 名（うちスポット利用者は 20 名）

昭和小学校児童およびブリティッシュ・スクール・イン・トウキョウ昭和生徒が対象の学童保育。放課後の習い事教室も実施した。

新型コロナウイルス感染拡大による昭和小学校の学級閉鎖に伴い、休室、時間短縮などを行った。

D.　世田谷区立男女共同参画センターらぷらすの運営

世田谷区の男女共同参画拠点施設として世田谷区から運営を受託している。

講座・研修、相談、情報収集提供機能の一体活用と地域市民グループ・団体との協働・連携により、各種事業を実施。

新型コロナウイルス感染拡大により、世田谷区所管課の要請を受け、利用時間の短縮、定員の削減等を行いながら運営した。

E.　川崎市男女共同参画センターすくらむ 21 の運営準備

4 月 1 日から指定管理者として施設及び事業の管理運営を行う。川崎市所管課の要請を受け、ホールなどの定員削減、利用時間の短縮などを行いながら運営。毎週の職員ミーティング、月 1 回の川崎市所管課とのミーティング等を経て、順調に事業を開始した。